



始



大正十年度事業報告

新潟縣農事試驗場

1421
28/1

1421-28/1



本報告ハ當場ニ於テ施行セル
大正九年度冬作及大正十年度
夏作試験成績並ニ其ノ他ノ事
業ヲ記載シタルモノナリ

大正十一年十月

新潟縣農事試験場

大正
11. 11. 4
内交

大正十年度事業報告目次

種 藝 部

水 稻 ノ 部	1
第一 豊凶考照試験	1
第二 品種對施肥量試験	1
第三 耕鋤深淺對施肥量試験	1
第四 品種對三要素配合法試験	1
第五 肥料種類配合法試験	2
第六 窒素質肥料種類試験	2
第七 燐酸質肥料種類試験	2
第八 原種對株數試験	2
第九 直播對株數本數試験	2
第十 施肥量ト移植法トノ關係試験	3
第十一 客土試験	3
第十二 石灰追肥期試験	3
第十三 米糠施用法試験	3
第十四 除草面數試験	3
第十五 苗代追肥期試験	3
第十六 苗代種類試験	3
第十七 地温觀測	4
第十八 生育調査	4
第十九 無肥料試験	4
第二十 品種比較本試驗	4
第二十一 品種比較豫備試驗	4
第二十二 御大典記念出品稻比較試験	5
第二十三 純系淘汰試験	5
第二十四 系統集團淘汰法試驗	8
第二十五 自然雜種ニ依ル品種育成試験	8
第二十六 人為雜種ニ依ル品種育成試験	8
陸 稻 ノ 部	9
第一 品種比較試験	9
第二 純系淘汰試験	9
第三 浸種日數試験	9
第四 畦ノ構造ト土入試験	9

大豆ノ部	9
第一 品種比較試験	9
第二 純系淘汰試験	10
第三 綠肥大豆品種比較試験	10
第四 株間廣狭ト施肥量試験	11
第五 移植期試験	11
第六 收穫期調査	11
大麥ノ部	11
第一 麥豐凶考照試験	11
第二 栽培法試験	11
第三 土入回數試験	12
第四 土入ト鎮壓トノ關係試験	12
第五 品種對施肥量試験	13
第六 追肥期試験	13
第七 品種比較本試験	13
第八 品種比較豫備試験	14
第九 純系淘汰試験	14
小麥ノ部	15
第一 品種比較本試験	15
第二 品種比較豫備試験	15
農具ノ部	15
氣象觀測ノ部	16
粃貯藏試験ノ部	16
第一 今摺米改夏試験	16
第二 粃「セイロ」貯藏試験	16
委托試験ノ部	16
第一 水稻品種比較委托試験	16
原種圃ノ部	17
第一 水稻原種圃	17
第二 陸稻原種圃	17
第三 麥原種圃	18
第四 大豆原種圃	18
第五 甘藷原種圃	19
第六 馬鈴薯原種圃	19

採種圃ノ部	19
第一 米採種圃	19
第二 麥採種圃	21
第三 大豆採種圃	22
第四 甘藷馬鈴薯採種圃	23
種子配付ノ部	24

園藝部

蔬菜ノ部	25
第一 茄子品種試験	25
第二 茄子鹽素剝剝效果試験	25
第三 甘藷品種試験	26
第四 甘藷純系淘汰試験	27
第五 甘藷貯藏試験	27
第六 蘿蔔品種試験	28
第七 蘿蔔整入試験	28
第八 結球白菜品種試験	30
第九 白菜肥料種類試験	31
委托試験ノ部	31
第一 歐洲葡萄特性調査	31
第二 歐洲葡萄「ヨーロッパイン」收支調査	31

農藝化學部

木框試験ノ部	33
第一 天然供給量試験	33
第二 有機質肥料ノ地力ニ及ボス影響試験	33
圓筒試験ノ部	34
第一 石灰窒素施用法試験	34
第二 鹽害豫防法試験	35
第三 米糠施用法試験	36
第四 燐酸質肥料試験	36
第五 窒素及燐酸適量試験	37
第六 燐酸形態試験	37
第七 燐酸「アルミナ」精粗ニ關スル試験	38

施肥標準調査ノ部.....	38
第一 施肥標準調査.....	38
第二 施肥標準量査定試験.....	39
依頼分析ノ部.....	39
第一 分析件数及成分数.....	39

病 虫 部

病害ノ部.....	41
第一 稻熱病ニ關スル試験.....	41
第二 大豆病害試験.....	42
害虫ノ部.....	43
第一 梨姬心喰虫驅除試験.....	43
第二 蝻蝓喰害防除試験.....	44
第三 野鼠毒劑試験.....	45
藥劑ノ部.....	46
第一 銅石鹼液撒布試験.....	46
委託試験ノ部.....	47
第一 大豆月夜病試験.....	47
第二 馬鈴薯青枯病試験.....	48
第三 梨姬心喰虫防除試験.....	48
野鼠窒扶斯菌配付ノ部.....	49

農業技術員養成部

農業技術員及補習學校教員養成.....	51
---------------------	----

庶 務 部

第一 出張ニ關スル事項.....	55
第二 印刷物發刊ニ關スル事項.....	55
第三 文書取扱件数.....	55
第四 參觀人員.....	55
第五 本場職員.....	56

種 藝 部

水 稻 之 部

第一 豊凶考照試験 (繼續第二十七年)

本試験ハ連年繼續シ其年ノ豊凶ヲ豫想スルト同時ニ監督官廳及主務省へ報告スルノ基礎ヲ得ルニアリテ各期ニ其生育状況ヲ調査シ其都度之ヲ報告發表セリ

第二 品種對施肥量試験 (繼續第二年)

本試験ハ當場ニ於テ試験ノ結果有望ト認メタル品種ノ耐肥力ヲ試験セントスルモノニシテ龜ノ尾、新高、新大場、水野錦、新一本、畿内早稻卅九號、神州、米光、新愛國、愛國、越中坊主、稻川、新石白、新二本、改良美濃坊主、畿内早稻七十三號、銀坊主、御前糯ノ十八品種ニ付キ試験セリ本年度ニ於ケル成績ニヨレバ龜ノ尾、米光、愛國、新石白ハ三割増肥料區新高、新大場、水野錦、新一本、畿内早稻卅九號、神州、新愛國、越中坊主、稻川ハ六割増肥料區最高收量ヲ示セリ尙此等ノ品種ニツキ繼續試験セントス

第三 耕鋤深淺對施肥量試験 (繼續第三年)

本試験ハ耕鋤ノ深淺ト施肥量トノ關係ヲ知ラントスルモノニシテ本年度及前三ケ年平均成績ハ次表ノ如シ

試験別	四寸耕	六寸耕	八寸耕	一尺耕	三ケ年平均收量			
					四寸耕	六寸耕	八寸耕	一尺耕
普通肥料	2.764	3.049	2.760	2.718	2.789	2.825	2.763	2.847
二割増肥料	3.015	2.725	2.975	2.865	2.867	3.008	2.834	2.953
四割増肥料	3.157	3.127	3.124	3.012	3.068	3.191	2.973	3.039
六割増肥料	3.208	3.041	3.361	3.595	2.982	3.104	3.128	3.277
十割増肥料	3.292	3.033	3.284	3.291	3.188	3.190	3.206	3.389

備考 普通肥料トハ堆肥百五十貫、大豆粕十二貫、蒸製骨粉三貫、強過磷酸石灰一貫八百匁、石灰十二貫、追肥トシテ人糞尿六十貫匁ヲ施用セルモノナリ

第四 品種對三要素配合法試験 (繼續第二年)

本試験ハ品種ニ對シ肥料三要素配合法ノ如何ニヨリ收量ニ及ボス影響ヲ

知ラントスルニアリテ本年度ノ成績ニヨレバ龜ノ尾ハ窒素二貫五百匁、磷酸三貫匁、加里三貫五百匁區、早坊主ハ窒素磷酸加里各二貫匁區、石白ハ窒素磷酸加里各三貫匁區、改良愛國ハ窒素磷酸二貫五百匁、加里三貫匁區、改良美濃坊主ハ窒素三貫匁、磷酸三貫五百匁、加里四貫匁區何レモ最高收量ヲ得タリ尙試験ヲ繼續セントス

第五 肥料種類配合法試験 (新設)

本試験ハ肥料ノ種類ト配合法ヲ異ニスル場合ニ於ケル收量ヲ見ントスルニアリテ本年度ノ成績ニヨレバ大豆粕、硫酸アンモニヤ、米糠、過磷酸石灰及菜灰ヲ使用セルモノ最多收量ヲ得タリ尙繼續試験セントス

第六 窒素質肥料種類試験 (新設)

本試験ハ窒素質新肥料ニツキ其ノ効果ヲ知ラントスルニアリテ大豆粕(標準)、アンモホース、撒粕ノ三種ニツキ試験シタルニ何レモ大差ナキ收量ヲ得タリ尙試験ヲ繼續セントス

第七 磷酸質肥料種類試験 (新設)

本試験ハ磷酸質新肥料ニツキ其ノ肥効ヲ知ラントスルニアリテアンモホース、磷酸アルミナ、強過磷酸石灰(標準)ノ三種ニ付キ試験シタルニ何レモ大差ナキ成績ヲ得タリ尙繼續試験セントス

第八 原種對株數試験 (繼續第二年)

本試験ハ獎勵原種ノ適當ナル移植株數ヲ知ラントスルモノニシテ本年度ニ於ケル成績ハ新岩ハ五十四株三本植、新高ハ六十株二本植、越中坊主ハ五十四株三本植、新大場ハ七十二株二本植、新愛國ハ四十二株四本植、新一本ハ六十株二本植、新石白ハ四十二株四本植、新二本ハ六十株二本植、米光ハ四十二株四本植、水野錦ハ七十二株二本植區最多收量ヲ得タリ尙試験ヲ繼續セントス

第九 直播對株數本數試験 (新設)

本試験ハ直播ノ場合ニ於ケル株數及苗數ノ適當ナルモノヲ知ラントスルニアリテ本年度ノ成績ニヨレバ四十二株二本立ノモノ最多收量ヲ得タリ尙

試験ヲ繼續セントス

第一〇 施肥量ト移植法トノ關係試験 (新設)

本試験ハ施肥量ヲ増加シタル場合ニ於ケル畦植、普通植ト株數トノ關係ヲ知ラントスルニアリテ本年度ノ成績ニヨレバ各區共著シキ差ナシ尙ホ試験ヲ繼續セントス

第一一 客土試験 (繼續第二年)

本試験ハ客土ノ効果ヲ知ラントスルモノニアリテ本年度ノ成績ニヨレバ各區共ニ著シキ差ナシ尙本試験ヲ繼續セントス

第一二 石灰追肥期試験 (繼續第二年)

本試験ハ石灰ノ追肥ノ時期ヲ知ラントスルニアリテ本年度ノ成績ニヨレバ七月十八日ニ追肥セルモノ最多收量ヲ得タリ尙試験ヲ繼續セントス

第一三 米糠施用法試験 (新設)

本試験ハ米糠ノ適當ナル施用法ヲ知ラントスルニアリテ本年度ノ成績ニヨレバ米糠ヲ其儘施シタルモノ收量多キヲ示セリ尙試験ヲ繼續セントス

第一四 除草回数試験 (新設)

本試験ハ除草ノ回数及時期ト稻ノ生育及收量ニ及ボス影響ヲ知ラントスルニアリテ本年度ニ於テハ六月十五日、七月一日、七月十五日、八月一日ノ四回ニ除草ヲナセルモノ收量多カリキ尙ホ試験ヲ繼續セントス

第一五 苗代追肥期試験 (新設)

本試験ハ苗代ニ對シ追肥ノ時期ト苗ノ生育狀況ヲ調査セントスルニアリテ本年度ノ成績ニヨレバ播秧前一週間ニ施シタルモノ生育良好ナリキ尙ホ試験ヲ繼續セントス

第一六 苗代種類試験 (新設)

本試験ハ陸苗ト水苗トノ比較ヲ行ハントスルニアリテ供試品種ハ小田珍光、新愛國、改良美濃坊主ノ三品種ヲ用ヒ試験シタルニ各品種共同一傾向

ナル成績ヲ得ザリキ尙ホ試験ヲ繼續セントス

第一七 地 温 観 測 (繼續第三年)

水稻栽培中ニ於ケル地温ヲ乾濕田ニケ所ニ於テ毎日午前十時ニ於テ十種ノ深サヲ観測セリ

第一八 生 育 調 査 (繼續第七年)

本調査ハ移植後五日乃至六日毎ニ草丈及分蘖ノ状況ヲ調査シ其年ノ有効分蘖ノ時期ヲ知ラントスルニアリテ本年度ニ於テモ前年ト略同様ノ成績ヲ得タリ

第一九 無 肥 料 試 験 (繼續第十年)

本試験ハ永年無肥料區ノ收穫量ヲ調査セントスルモノニシテ本年度ノ成績ハ反當一石三斗五升七合ノ收量ヲ示セリ尙ホ試験ヲ繼續セントス

第二〇 品 種 比 較 本 試 験 (繼續第十四年)

本試験ハ品種比較豫備試験ノ結果成績優良ニシテ本縣ニ於テ有望ト認メタル品種ニ就キテ詳細ニ其ノ優劣ヲ比較シ本縣ニ必適ノ品種ヲ選定セントスルモノニシテ本年度ニ於テハ二十品種ニ就キテ比較ヲ行ヒタルニ畿内早稻二十二號、全三十九號、全五十七號、全七十三號、全九十一號ハ何レモ三ヶ年以上試験セルモノニシテ其成績優良ナリシヲ以テ更ニ地方ニ於ケル適否試験地ニ於テ試験セン計劃ヲ以テ本試験ヨリ除キ其ノ他ノ品種ニ就キ更ニ繼續試験シ其ノ優劣ヲ査定セントス

本年度ニ於テハ特ニ其ノ成績優良ニシテ縣下ニ之ガ栽培ヲ普及獎勵スルノ價値アリト認メ種子繁殖ノ爲原種圃ニ移シタルモノナシ

第二一 品 種 比 較 豫 備 試 験 (繼續第十一年)

本試験ハ各地方ヨリ其ノ土地ノ優良品種ヲ蒐メ當地方ニ於ケル優劣ヲ比較調査シ前記品種比較本試験ニ供用スベキ品種ヲ選定センガ爲メニ豫備的試験ヲ行フモノニシテ本年度ニ於テハ新ニ蒐集シタル品種及前年度以前ニ取寄セタルモノ合計三十二品種ニ就キ試験ヲ行ヒタル結果下記六品種ヲ選抜シテ品種比較本試験ニ移スノ計畫ヲ樹テ殘餘ノ二十六品種ニ就キテハ新

ニ加フベキ十三品種ト共ニ試験ヲ繼續セントス

本年度ニ於テ選抜シ品種比較本試験ニ移サントスルモノ次ノ如シ

品 種 名	成 熟 期	累年平均玄米 反當收量	玄米品質
米 光	10.3 ^日	(4)2.942	中ノ下
豊 後 十 五 號	9.20	(4)2.801	中ノ中
東 郷 二 十 一 號	9.23	(4)2.437	上ノ中
陸 羽 二 十 號	9.19	(2)2.923	中ノ上
愛 國 (南魚沼郡)	9.18	(2)3.068	中ノ中
神 州	9.26	(2)3.116	上ノ中

第二二 御大典記念出品稻比較試験 (繼續第六年)

本試験ハ新潟縣農會ノ委托ヲ受ケ同會主催水稻品種改良獎勵規程ニ基ク出品稻ノ優劣ヲ比較調査スルモノニシテ本年度ニ於テハ九品種ニ就キ試験ヲ行ヒ之ガ成績ヲ同會ニ報告セリ

第二三 純 系 淘 汰 試 験 (繼續第七年)

本試験ハ在來品種ノ改良ヲ圖ランガ爲メニ行フモノニシテ大正四年度ニ着手シ爾來繼續試験中ノモノニシテ今試験着手年度順ニ其ノ概要ヲ記セバ次ノ如シ

イ、大正四年度着手純系淘汰試験

本試験ハ管内栽培反別ノ大ナルト品種比較試験ノ結果優良ナリシ十二品種ニ就キ行ヘルモノニシテ大正八年度ニ於テ試験完結シタルガ其ノ改良中効果著シク普及用トシテ選抜決定シ新品种名ヲ附シ之ガ種子繁殖ヲナス爲メ原種圃ニ移シタルモノ次ノ八品種ナリ右試験ノ經過成績及改良セラレタル主要ナル點等ハ大正八年度報告ニ掲ゲタルヲ以テ爰ニ之ヲ略ス

但シ岩ノ下ハ其ノ特性收量等總テノ點ニ於テ新岩ト大差ナキヲ以テ本年度ヨリ原種圃ニ栽培スル事ハ中止セリ

品 種 名	選 出 在來種名	品 種 名	選 出 在來種名	品 種 名	選 出 在來種名
新 石 白	石 白	新 大 場	大 場	新 高	高田早稻
新 愛 國	愛 國	新 二 木	二 木 三	新 岩	岩ノ下
新 一 木	二 木 三	岩ノ下	岩ノ下		

□、大正五年着手純系淘汰試験

前記大正四年度ニ着手シタル淘汰試験ハ其材料尠少ナリシ爲更ニ該試験ノ効果ヲ確實ニセンガ爲メ十四品種ニ就キ之ヲ行ヒ前年度ヲ以テ過半ノ品種ハ試験ヲ完結シタルガ其ノ結果改良ノ効果著シク普及用トシテ選抜決定セラレ之ガ種子ヲ繁殖センガタメニ本年度原種圃ニ移シテ栽培セラレタルモノハ龜ノ尾五ノ四五、越中坊主五ノ六、石白五ノ一八六ノ三品種ニシテ大正十一年度ヨリ原種圃ニ移ス目的ヲ以テ本年度原々種栽培ヲ爲シタルモノハ早生坊主五ノ一〇、中生高宮五ノ一五、銀葉五ノ三二、越前五ノ六〇石白五ノ一六四ノ五品種ナリ又前述ノ十四品種中大正七年度圃場ノ都合ニヨリ收量調査ヲ爲サリシ越中坊主、石白、銀葉、越前、新庄内、庄内坊主ノ六品種ハ本年度ヲ以テ三ヶ年ノ收量調査ヲ完結シタルガ其ノ結果改良ノ効果著シク普及用トシテ選抜決定シタルモノハ新庄内五ノ五三、庄内坊主五ノ三〇ノ二品種ニシテ其ノ他ノ品種ニ於テハ既ニ前年度ニ於テ原々種栽培ヲナシタル系統ノモノ皆成績良好ニシテ本年度收量調査試験ハ是等ノ品種ニ就キ更ニ其ノ優良ナル點ヲ確メタルコト、ナレリ、大正五年度着手純系淘汰試験ノ結果普及用トシテ選抜決定セラレタルモノ、中前年度報告セザリシ石白五ノ一六四、新庄内五ノ五三、庄内坊主五ノ三〇、越前五ノ六〇ノ四品種ニツキ其ノ試験經過並ビニ累年平均收量及改良セラレタル主要ノ點ノ概要ヲ記スレバ次ノ如シ

1. 本年度迄ノ試験經過

Table with 10 columns: 品種名, 初年目栽培株数, 初年目選抜株数, 第二年目各系統栽培株数, 第二年目選抜株数, 第三年目各系統栽培株数, 第三年目選抜株数, 第四年目各系統栽培株数, 第四年目選抜株数, 第五年目各系統栽培株数, 第五年目選抜株数, 第六年目各系統栽培株数, 第六年目選抜株数. Rows include 石白, 新庄内, 庄内坊主, 越前.

2. 普及用トシテ選抜決定セルモノ、累年平均收量

Table with 6 columns: 品種名, 反當玄米收量, 原種ニ比シ増収反當%, 在來種ニ比シ増収反當%, 玄米品質. Rows include 石白, 新庄内, 庄内坊主, 越前.

3. 改良セラレタル主要ナル點

石白一六四 原種及在來種ニ比シ收量多ク稈長三一四寸短ク從ツテ稈強ク多肥栽培ヲナスモ倒伏スルノ憂少ナシ石白一八六ヨリモ更ニ二寸程稈長短シ

新庄内五三 在來種ニ比シ收量多シ

庄内坊主三〇 在來種ニ比シ收量多ク稈又稍強シ

越前六〇 在來種ニ比シ收量多ク稈又稍強シ

ハ、大正六年度着手純系淘汰試験

在來愛國種ハ變異性大ニシテ之レガ改良ヲ行ハシガ爲メ大正六年度ニ於テ更ニ材料蒐集ノ範圍ヲ廣メ純系分離試験ニ着手シ本年度ヲ以テ試験完結シタルガ其ノ結果普通愛國ヨリモ成熟期約十日早ク新岩、龜ノ尾ト成熟期略々相同ジク早稻增收向品種トシテ有望ト認メタルモノ一系統ヲ選抜シ大正十一年度ニ於テ原々種栽培ヲ爲スノ計劃ヲ樹テタリ本年度迄ノ試験經過並ニ在來種トノ比較成績ノ概要次ノ如シ

1. 本年度迄ノ試験經過

Table with 8 columns: 品種名, 初年目栽培株数, 初年目選抜株数, 第二年目各系統栽培株数, 第二年目選抜株数, 第三年目各系統栽培株数, 第三年目選抜株数, 第四年目各系統栽培株数, 第四年目選抜株数. Row: 愛國.

2. 在來種トノ比較試験

Table with 10 columns: 品種名, 累年平均收量, 出穂期, 成熟期, 稈長, 穗長, 莖數, 稈強弱, 米質. Rows: 愛國 5ノ40, 全在來種.

ニ、大正九年度着手純系淘汰試験

本縣ニハ糯ノ優良品種少キヲ以テ之ガ改良ヲ爲ス目的ヲ以テ大正九年度ヨリ山崎糯、御前糯ノ二品種ニ就キ純系淘汰試験ヲ行ヒタル本試験ノ經過次ノ如シ

Table with 6 columns: 品種名, 取寄先數, 初年目栽培株数, 初年目選抜株数, 第二年目各系統栽培株数, 第二年目選抜株数. Rows: 山崎糯, 御前糯.

第二四 系統集團淘汰法試驗 (新 設)

改良愛國ハ本縣水稻獎勵品種中成績極メテ良好ニシテ其栽培反別モ最近急ニ増加シタルモ其ノ特性中出穂期及芒ノ有無長短其ノ他ノ點ニ於テ尙固定セザルモノ、如クナルヲ以テ前年度原種圃ニ栽培セルモノ、中ヨリ四十株ヲ選抜シ本年度之ヲ各系統別ニ栽培シ詳細ナル特性調査ヲ爲シタル結果最モ優良ト認メタル四系統ヲ選ビテ原々種ト爲シ大正十一年度原種圃ニ栽培スル計劃ヲ樹テタリ尙四十系統中不良系統ヲ除外シタル十一系統ハ原々種ニ選抜セラレタル四系統ト共ニ大正十一年度ヨリ純系分離ノ收量調査ト同様ノ事ヲ行ヒ數年後ニ於テ最モ優良ナル一純系ヲ選抜セン計劃ナリ

第二五 自然雜種ニ依ル品種育成試驗 (繼續第七年)

大正四年度着手純系淘汰試驗愛國系統中大正五年度ニ於テ自然雜種ニ原因シ分離ヲ爲シツ、アル雜種系統ヲ發見シ之ヲ雜種ノ第二代ト見做シ大正六年度ニ於テ第三代六十家族ヲ分離栽培シ更ニ選抜分離シテ大正七年度第四代百家族トナシ大正八年度ニ於テハ第五代百家族ヲ栽培シ九年度ハ更ニ第六代二百四十家族ニ分離シテ特性調査ヲ行ヒタル結果有望ノモノ多カリシヲ以テ本年度ハ更ニ試驗調査ヲ進メシガ爲四百五十系統ヲ選抜シ栽培シタル結果殆ド固定セリト認メラル、モノ多カリシガ其ノ中有望ト認メタルモノ四十系統ヲ選抜シ大正十一年度ニ於テハ愈々收量調査ヲ爲スノ計劃ヲ樹テタリ

第二六 人為雜種ニ依ル品種育成試驗 (繼續第三年)

本縣ニ適スル新優良品種ヲ育成センガ爲大正八年度ニ左記ノ組合セニヨリ雜種ヲ作り大正九年度ニ於テハ第一代ヲ栽培シタルガ本年度ハ之ガ第二代ヲ栽培セリ本年度迄ノ試驗經過次ノ如シ

品 種 名	第一代栽植株數	第二代栽植株數	第二代選抜株數
1 { 二本三 5ノ36號 × 愛 國 5ノ35號	2	2,800	232
2 { 中生高宮 5ノ34號 × 愛 國 5ノ35號	10	14,000	247

陸 稻 ノ 部

第一 品種比較試驗 (繼續第十一年)

本試驗ハ各地方ヨリ品質優良收穫多量ナル品種ヲ蒐集シ其ノ優劣ヲ比較調査シ本縣ニ適スル良種ヲ選抜決定セントスルニアリテ本年度コレニ供用セル品種ハ久藏、氷川、關取、秩父糯、早生糯、中生糯、藤藏糯、黑鬚選出、在一九號、在三六號ノ十一品種ナリ而シテ本年度ハ發芽當時虫害甚シカリシ爲收量調査ヲ見合セタリ

第二 純系淘汰試驗 (繼續第五年)

本試驗ハ品種比較試驗ノ結果優良ト認メタル江曾島糯ニツキ大正六年度ニ於テ縣下五ヶ所ヨリ材料ヲ蒐集シ二千三百七十株ヲ栽培シ二年目ニ於テ六十系統ヲ栽培シテ特性調査ヲ行ヒ第三年目ニ於テハ之ヨリ選抜セル十四系ヲ栽培試驗セリ而シテ大正九、十兩年度ハ虫害大ニシテ收量調査ヲ行ヒ得ザリシヲ以テ大正十一年度ニ於テ更ニ十系ニ就キ收量調査ヲ行フ計劃ヲ樹テタリ

第三 浸種日數試驗 (新 設)

本試驗ハ浸種日數(三日、五日、七日、十四日ノ四區)ニヨリ陸稻ノ發芽生育收量ニ及ボス影響ヲ知ラントスルモノニシテ本年度成績ニヨレバ浸種日數七日間ノモノ發芽生育良好ナリシモ收量ニアリテハ早魃害虫等ノ被害ヲ受ケ信據スベキ成績ヲ得ザリキ

第四 畦ノ構造ト土入試驗 (新 設)

本試驗ハ平畦、低畦ト土入回数並ニ食鹽ノ加用トノ關係ヲ知ラントスルモノニシテ本年度ニアリテハ害虫、早魃等ノ被害ヲ蒙リ正確ナル成績ヲ得ザリキ尙ホ試驗ヲ繼續セントス

大 豆 ノ 部

第一 品種比較試驗 (繼續第十年)

本試驗ハ從來本場ニ於テ試驗ノ結果優良ト認メタル品種中ヨリ最優良ニ

シテ本縣下ニ必適ノ品種ヲ選抜シタル殘餘ノ品種ト更ニ新ニ蒐集セル品種トニ就キ試驗ヲ行ヒ詳細ニ其ノ優劣ヲ調査シ以テ地方必適ノ品種ヲ決定セントスルニアリ、本年度ニアリテハ前年度ニ引キ續キ二十二品種ニ就キ試驗セリ、右ノ中比較的優良ナル品種ノ成績概要下ノ如シ

品 種 名	反 當 子 實 收 量	品 質	品 種 名	反 當 子 實 收 量	品 質
世 界 一	2.001	上ノ下	陸 羽 3 號	1.692	中ノ中
陸 羽 2 6 號	1.885	上ノ下	入 石	1.681	上ノ中
名 下	1.871	中ノ上	陸 羽 2 5 號	1.579	上ノ下
陸 羽 1 0 號	1.701	上ノ上	刈羽瀧谷(標 準)	0.906	中ノ下

第 二 純 系 淘 汰 試 驗 (繼續第五年)

本試驗ハ品種比較試驗ノ結果優良ト認メタル赤莢、瀧谷ノ二品種ニ就キ淘汰ヲ行ハントスルモノニシテ大正六年度縣下二十九ヶ所ヨリ材料ヲ蒐集シ赤莢四千六十個體瀧谷二千五百個體ヲ初年目ニ於テ栽培シ之ヨリ選抜シタルモノ各六十系ヲ第二年目ニ栽植シテ特性調査ヲ行ヒ第三年目ニハ赤莢瀧谷各十四系統ニツキ收量調査ヲ行ヒ九年度ハ十二系統ヲ供試セルモ發芽當時虫害大ナリシ爲正確ナル成績ヲ得ラザリシヲ以テ大正十一年度ニ於テ更ニ各十二系統ニ就キ試驗セントス本年度ノ比較的優良ナリシモノ、成績概要ヲ記セバ次ノ如シ

品 種 名	系 統 番 號	反 當 子 實 收 量	品 質	品 種 名	系 統 番 號	反 當 子 實 收 量	品 質
赤 莢	33	1.615	中ノ中	瀧 谷	32	1.794	上ノ下
全	54	1.675	中ノ中	全	61	1.961	上ノ下
全	64	2.018	中ノ上	全	62	1.781	中ノ上
全	標準	1.845	中ノ中	全	標準	1.244	中ノ中

第 三 綠 肥 大 豆 品 種 比 較 試 驗 (繼續第七年)

本試驗ハ各地方ニ栽培セラル、綠肥大豆ノ品種ヲ蒐集シ其優劣ヲ比較シ本縣ニ必適ノ品種ヲ決定セントスルモノニシテ本年度ニ於テハ前年度栽培セルモノ、中有望ト認メタル五品種ニ就キ試驗セリ本年度マデノ試驗ノ結果成績良好ナルモノ次ノ如シ

品 種 名	開 花 期	本 年 度 反 當 生 葉 收 量	四 ヶ 年 平 均 收 量
陸 羽 9 號	7.26	496.125	520.169
全 1 1 號	7.29	514.500	531.950
朝 鮮	7.23	469.125	484.236

第 四 株 間 廣 狹 ト 施 肥 量 試 驗 (繼續第三年)

本試驗ハ大豆ノ株間廣狹ト肥料用量トノ關係ガ收量ニ及ボス影響ヲ知ラントスルニアリテ本年度ニ於ケル成績ハ施肥量ノ多少ニ拘ラズ何レモ株間ノ狭キモノ收量多カリキ尙試驗ヲ繼續セントス

第 五 移 植 期 試 驗 (繼續第三年)

本試驗ハ前作ノ關係ニテ適期ニ播種シ能ハザル場合ニ於ケル移植ト收量トノ關係ヲ知ラントスルニアリテ本年度ノ成績ニヨレバ移植セルモノハ各區共收量多キヲ示セリ即チ播種期ノ遅ル、場合ニハ豫メ圃場ニ播種シ置キタルモノヲ移植スルヲ可トス尙試驗ヲ繼續セントス

第 六 收 穫 期 調 査 (繼續第三年)

本調査ハ大豆ノ收穫期ト收量ニ及ボス影響ヲ知ラントスルニアリテ本年度ノ成績ニヨレバ葉ノ黄色トナリタル時ニ收穫セルモノ收量多カリキ尙試驗ヲ繼續セントス

大 麥 ノ 部

第 一 麥 豐 凶 考 照 試 驗 (繼續第十八年)

本試驗ハ其年ノ麥豐凶ヲ豫想スルト同時ニ監督官廳及主務省ヘ報告スルノ基礎ヲ得ルニアリテ本年度モ各期ニ於テ夫々報告發表セリ

第 二 栽 培 法 試 驗 (繼續第六年)

本試驗ハ栽培法ヲ異ニシタル場合ニ於ケル麥ノ收量ヲ知ラントスルモノニシテ低畦、高畦、平畦、四寸溝二行播、三尺高畦二行播、吉田式廣蒔法ノ六種ノ方法ニ付試驗シタルニ高畦及三尺高畦二行播ノ二區ハ野鼠ノ被害

多ク收量調査不能ナレドモ其他ノ四區ニ於テハ吉田式廣蒔法ノ三石二斗八升九合最モ收量多ク四寸二行播ノ二石七斗一升六合之レニ次ギ平畦ノ二石五斗四升四合低畦ノ一石九斗五升ノ成績ヲ得タリ尙繼續試驗セントス

第三 土入回数試験 (繼續第三年)

本試験ハ土入ノ時期及其回数ガ麥ノ收量ニ及ボス影響ヲ知ラントスルモノニシテ本年度成績及三ヶ年平均成績ヲ擧グレバ次ノ如シ

區名	試験別	本年度成績	三ヶ年平均成績
1	秋季無土入春季二回土入	2.586	2.177
2	秋季一回土入春季全上	1.942	1.845
3	秋季二回土入春季全上	2.632	1.949
4	秋季全上春季無土入	2.366	2.116
5	秋季全上春季一回土入	2.628	2.085
6	秋季全上春季三回土入	2.570	2.153

第四 土入ト鎮壓トノ關係試験 (新設)

本試験ハ麥作ニ於テ土入ト同時ニ鎮壓シタル場合無土入ニ於テ鎮壓ノミ行ヒタル場合生育並ニ收量ニ如何ニ關係アルヤヲ試ミルモノニシテ試験別並ニ本年度成績ヲ擧グレバ次ノ如シ

區名	試験別
1	第一回二寸前後ノ時三分土入踏付、第二回十月下旬乃至十一月上旬六分土入踏付、第三回四月上旬一寸土入踏付、第四回四月下旬三寸土入踏付
2	第一回二寸前後ノ時三分土入無踏付、第二回十月下旬乃至十一月上旬六分土入踏付、第三回四月上旬一寸土入踏付、第四回四月下旬三寸土入踏付
3	第一回、第二回土入前區ノ通り踏付第三回、第四回前區ノ通り土入但シ踏付セズ
4	無土入、土入時期ニ踏付第一回ニシテ第四回迄
5	無土入第一、二回土入期ニ踏付、第三、四回踏付セズ
6	標準區無土入無踏付

成 績

區名	反當收量	區名	反當收量
1	2.250	4	雪害及野鼠ノ被害ノ爲メ收量調査不能
2	1.830	5	全上
3	2.104	6	全上

第五 品種對施肥量試験 (新設)

本試験ハ施肥量ノ多少ト收量トノ關係ヲ知ラントスルモノニシテ、試験別、並ニ成績ヲ示サバ次ノ如シ

三割減肥料	長 岡	飛 騨	今朝白	六角シュバリー	横 澤	赤皮赤	マーチンズアンバー
普通肥料	全	全	全	全	全	全	全
三割増肥料	全	全	全	全	全	全	全
六割増肥料	全	全	全	全	全	全	全
十割増肥料	全	全	全	全	全	全	全

品 種 別	三割減肥料	普通肥料	三割増肥料	六割増肥料	十割増肥料
長 岡	1.888	2.134	2.076	2.360	2.360
飛 騨	1.714	1.935	2.285	2.257	2.228
今 朝 白	1.799	1.897	2.117	2.101	2.256
六角シュバリー	1.937	鼠害ノタメ	調査不能	2.293	2.294
横 澤	雪害及鼠害ノ爲メ調査不能	調査不能	調査不能	調査不能	調査不能
赤 皮 赤					
マーチンズアンバー					

第六 追肥期試験 (新設)

本試験ハ春季ニ於ケル追肥ノ時期ト收量トノ關係ヲ知ラントスルモノニシテ四月十日追肥區、四月二十日追肥區、四月三十日追肥區、四月十日及四月三十日二回追肥區ノ四區ニ就テ試験シタルニ春季融雪、冬季寒害及野鼠ノ被害ノ爲メ收量調査不能ナリシヲ以テ更ニ繼續試験セントス

第七 品種比較本試験 (繼續第二十二年)

本試験ハ從來ノ試験ノ結果最モ優良ナルモノヲ獎勵原種トシテ原種圃ニ移シタル殘餘ノ品種並ニ後記品種比較豫備試験ノ結果有望ト認メタルモノニ詳細ニ其ノ優劣ヲ比較シ地方必適ノ良品種ヲ選定セントスルモノニシテ

本年度ニ於テハ前年度ニ引續キ十六品種ニツキ試験セル結果比較的優良ナリシモノ、成績概要次ノ如シ

品 種 名	反當子實收量	品 質	備 考
赤 藤	1.922	中ノ上	—
大 藤	1.965	中ノ中	—
谷 藤	2.007	中ノ上	—
大 藤	2.157	中ノ上	—
ケ 藤	2.066	中ノ上	—
三 藤	2.196	中ノ上	—
甲二三種揃カリホルニヤ	2.167	中ノ上	積雪下ノ鼠害大ナリシ爲
陸 羽 二 號	2.046	中ノ中	甲乙兩區中鼠害少ナキ一區ヲ收穫セリ
ケ 藤	1.842	中ノ上	—
長 岡 (標 準)	2.067	中ノ上	—

第 八 品 種 比 較 豫 備 試 驗 (續 續 第 八 年)

本試験ハ各地方ニ於ケル優良品種ヲ蒐集シ本縣ニ適スルヤ否ヤヲ試ミ有望ト認メタルモノハ之レヲ上記品種比較本試験ニ移サントスルモノニシテ本年度ニ於テハ十品種ニ付試験シタルモ鼠害大ナリシ爲メ其中五畝四石在來一號、同五號、同六號、同八號ノ五品種ニ就キ收量調査ヲ爲シタルモ正確ノ成績ヲ得ラザリシヲ以テ引續キ試験セントス

第 九 純 系 淘 汰 試 驗 (續 續 第 五 年)

本試験ハ品種比較試験ノ結果優良ト認メタル長岡及ビ今朝白ノ二品種ニ就キ淘汰ヲ行ハントスルモノニシテ大正五年度ニ於テ縣下各二ヶ所ヨリ材料ヲ蒐集シ各品種二千六百株ヲ栽植シ之レヨリ選抜シテ第二年目各六十系統ヲ栽培シテ特性調査ヲ行ヒ長岡二十一系統、今朝白二十七系統ヲ選抜セシモ圃場ノ都合上右ノ中最モ有望ナルモノ各十六系ニ就キテ收量調査ヲ行ヒ殘餘ハ圃場ニ餘裕ヲ生ズル迄保存センガ爲メ特性調査ヲ兼ネテ採種用トシテ若干ノ栽培ヲ爲スニ止メタリ而シテ前年度ハ鼠害ノ爲メ信據スベキ收量調査成績ヲ得ラザリシヲ以テ本年度更ニ同一系統ニ就キ試験セル結果比較的優良ナリシモノ、成績概要次ノ如シ

品 種 名	系 統 番 號	反 當 子 實 收 量	品 質	品 種 名	系 統 番 號	反 當 子 實 收 量	品 質
長 岡	3	2.048	中ノ上	今 朝 白	2	1.933	中ノ上
全	4	1.928	中ノ上	全	5	2.144	中ノ上
全	31	1.965	上ノ下	全	24	1.934	中ノ中
全	33	1.933	中ノ上	全	31	2.176	中ノ上
全	42	1.994	中ノ中	全	33	2.093	中ノ中
全	47	2.115	中ノ上	全	35	1.912	中ノ上
全	57	2.248	中ノ上	全	55	2.023	中ノ上
全	標準	1.890	中ノ上	全	標準	1.816	中ノ上

小 麥 之 部

第 一 品 種 比 較 本 試 驗 (續 續 第 五 年)

本試験ハ從來ノ試験ノ結果成績最モ優良ト認メタルモノヲ獎勵原種トシテ原種圃ニ移シタル殘餘ノ品種及新ニ後記品種比較豫備試験ヨリ轉入セルモノニ就キ詳細ニ其ノ優劣ヲ比較シ當地方ニ必適ノ良種ヲ選定セントスルモノニシテ本年度ニ於テハ下記十二品種ニ就キ試験セルモ冬季積雪下ニ於ケル鼠害及成熟期前ノ雀害大ナリシ爲メ再ビ収量ノ調査ヲ行フ事能ハザリシ爲メ特性調査ヲ爲スニ止メタリ

品 種 名	ドオニストラリヤ	白	川	赤皮赤(山形)	仙	北
	カリフォルニヤ	富	國	甲一六 伊賀筑後	甲四〇 白小麥	
	フルツ	マーチンズアソム		ドオニストラリヤ	ドオニストラリヤ	古志郡在來種

第 二 品 種 比 較 豫 備 試 驗 (續 續 第 六 年)

本試験ハ各地ヨリ優良ト認メタル品種ヲ蒐集シ本縣ニ適スルヤ否ヤヲ試験シ有望ト認メタルモノハ上記品種比較試験ニ移サントスルモノニシテ本年度ニ於テハ二十品種ニ就キテ試験セリ

農 具 之 部

本年度ニ於テハ動力用農具、石油發動機、糶摺臼、大豆粕削機、精米機揚水機、脱穀機等ヲ購入シ試用セリ

氣象觀測之部

毎日午前十時ニ於テ乾球、濕球、最高氣温、最低氣温、降水量、蒸發、地中温度、風向、風力、天候、日照時間、其他ノ氣象要素ニツキ觀測ヲ行ヒタリ

粃貯藏試驗之部

第一 今摺米改良試驗 (繼續第二年)

本試驗ハ大正九年度ヨリ農商務省ノ委托ニ依リ補助金ヲ受ケテ大正九年十二月ヨリ第一回ノ試驗ニ着手シ本年度十二月ヲ以テ試驗ノ一部ヲ完結シタルモ前年度粃買入期後レシ爲メ適當ノ水分含量ヲ有スルモノヲ得ラレザリシト倉庫ノ設備不完全ナリシ爲メ設計通りノ糠量ニ付キ試驗スル事能ハザリシモ大体ノ成績ヲ得タルヲ以テ追テ別ニ詳細ナル報告ヲ爲サントス尙ホ本試驗ハ來年度モ更ニ繼續試驗スル事トナレリ

第二 粃[セイロ]貯藏試驗 (新設)

本試驗ハ本年度ヨリ農商務省ノ委托ニ依リ前記今摺米改良試驗ト共ニ粃ノ「セイロ」貯藏ニ關シ試驗セントスルモノニシテ本年度供試粃ノ買入レヲ了シタレバ目下建築中ノ倉庫近ク完成ノ上ハ此所ニ於テ試驗セントス

委托試驗之部

第一 水稻品種比較委托試驗 (繼續第五年)

本縣ノ如ク面積廣大ニシテ氣候風土ノ事情千差萬別ナル所ニアリテハ特殊ノ地方ニ必適ノ品種ヲ選定スルノ必要アルト同時ニ本場ニ於テ選定セル優良品種ノ地方的適否ヲ決定スルハ甚ダ必要ナリ、本試驗ハ此目的ヲ以テ施行セルモノニシテ、本年度ニ於テハ中蒲原郡石山村地内湛水地一ヶ所、中魚沼郡十日町地内山間地一ヶ所及中頸城郡谷濱村地内山間地一ヶ所、計三ヶ所ニ於テ十二乃至十四品種宛ノ試驗ヲ行ヒタル結果湛水地方ニ於テハ愛國六ノ四〇、越中坊主一號、新愛國、畿内早稻十五號、全十一號及銀

坊主等ハ相當多肥栽培ノ場合ニ有望ニシテ新一本、新二本、新石白等ハ普通栽培ニ於テ有望ナリト認メタリ、又山間方面ニ於テハ新大場、水野錦、改良愛國、越中坊主一號、新愛國、陸羽二十號等概シテ優良ナルヲ認メタリ次年度ニ於テハ一層本試驗ヲ徹底的ニ行ハンガ爲メ麥ト共ニ縣下各郡ニ於テ適否試驗ヲ行ハン計劃ナリ

原種圃之部

第一 水稻原種圃

水稻原種圃ハ古志郡栖吉村大字成願寺ニ設置シ當場ノ直營トス其反別二町歩ニシテ本年度ニ作付シタル品種別反別、生産數量及配付數量次ノ如シ

品 種 名	作付反別	生産種穀量	
		石	石
越新龜	前岩尾	.603	.700
新龜	尾	.414	1.200
新龜	尾	1.116	4.450
新早	高主	.315	1.360
新早	坊主	.523	1.500
新大	大場	1.000	2.440
新一	一本	.526	1.470
新水	野錦	.705	1.310
中改	生高宮	.706	1.190
越米	良愛國	1.726	5.420
新銀	中坊主	.422	1.190
新石	光國	.822	2.100
新石	愛國	2.012	5.570
新石	葉本	.421	.870
新石	二本	.601	2.070
新石	石白	.912	2.310
新石	石白	1.414	4.050
計		14.728	39.200

備考 合計反別二町歩ニ違セザルハ苗代、畦畔、其他ヲ除去セルニヨル

第二 陸稻原種圃

前年度ニ繼續シ北魚沼郡堀之内村及城川村ニ二段歩ヲ委托設置シタリ、

而シテ其品種別反別及生産數量並ニ配付數量次ノ如シ

品 種 名	作付反別	生産數量	配付數量
江 曾 島 糰	1,500	1,350	1,350
製 捷	.500	.650	.450
計	2,000	2,000	1,800

第三 麥 原 種 圃

麥原種圃ハ古志郡栖吉村大字野崎ニ設置シ當場之ヲ直接經營ヲナセリ、其作付反別ハ五反歩ニシテ之ヨリ生産セル品種別數量及配付數量次ノ如シ

品 種 名	作付反別	生産數量	配付數量
大 麥 { 長 岡	1,600	1,927	1,853
{ 飛 驒	.800	.653	.641
{ 今 朝 白	.400	.530	.427
{ 六角シユバリー	.400	.540	.457
小 麥 { 赤 皮 赤	.800	.580	.569
{ マーチンスフンパー	.400	.200	.192
{ 横 澤	.400	.280	.242
計	4,800	4,710	4,381

備考 合計反別ニ於テ五反歩ニ滿タザルハ畦畔其他ヲ省キタルニヨル

第四 大豆 原 種 圃

大豆原種圃ハ古志郡栖吉村大字野崎ニ設置シ當場之ヲ直接經營セリ、其作付反別ハ一町歩ニシテ本年度ニ於ケル品種別、作付反別、生産數量及ビ配付數量次ノ如シ

品 種 名	作付反別	生産數量	配付數量
水 生 潜	1,200	1,143	1,112
劉 羽 瀧 娘 谷	1,400	1,403	1,085
岩 船 瀧 谷	2,400	2,750	1,485
赤 英	2,400	2,850	1,024
計	2,200	2,405	1,787
	9,600	10,551	6,493

備考 反別一町歩ニ滿タザルハ畦畔其他ヲ省キタルニヨル

第五 甘 藷 原 種 圃

甘藷原種圃ハ古志郡石津村大字岩野ニ設置シ當場之レヲ直營セリ、其反別ハ合計五反歩ニシテ本年度ニ於ケル作付反別及ビ生産數量並ニ配付數量次ノ如シ

品 種 名	作付反別	生産數量	配付數量
紅 赤	3,700	536,200	434,000
金 時	1,300	183,600	134,400
計	5,000	719,800	568,400

第六 馬 鈴 薯 原 種 圃

馬鈴薯原種圃ハ古志郡栖吉村ニ設置シ當場之レヲ直營セリ、而シテ之レガ栽培反別ハ五反歩ニシテ本年度ニ於ケル作付反別、生産數量及配付數量次ノ如シ

品 種 名	作付反別	生産數量	配付數量
ア - リ ロ - ズ	5,000	885,000	885,000

採 種 圃 之 部

第一 米 採 種 圃

從來本縣ノ採種圃組織ハ二次制度ナリシモ優良品種ノ普及上種々ノ不便アリシヲ以テ採種圃規定ノ改正ヲ行ヒ本年度ニアリテハ一階級制度トナシ委託栽培ヲ廢シ郡又ハ郡農會ノ直營トシ當場ヨリ原種ノ無償配付ヲ行ヒ反當六拾圓ノ補助金ヲ交付シ優良種子生産上遺憾ナキヲ期セリ、今其成績ヲ舉グレバ次ノ如シ

イ、郡別品種別反別

品種名	北蒲原郡	中蒲原郡	西蒲原郡	南蒲原郡	東蒲原郡	古志郡	三島郡	劉羽郡	北魚沼郡	南魚沼郡	中魚沼郡	東頸城郡	中頸城郡	西頸城郡	岩船郡	佐渡郡	計
越前	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5	5
岩ノ下	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
新岩	-	-	-	-	-	-	-	-	-	.5	.5	-	-	-	-	-	1

總ノ尾			4			1	3				1					1	2	12
高田早生																		1
新高			1															7.7
早坊主			5	1		1			0.2			0.5						
大場													0.5					4.5
新大場		1		2				1										1
新一木		1																13
水ノ錦		5	3	1			1		0.5	0.5	1.5	0.5						2
二本三		2																2.5
中生高宮									0.5					2				72.5
女良愛國	20	5	2	7		3	2	4	2	3	2	1.5	13	3	2	3		3.5
越中坊主				1					0.5					2				5
米光		1		2			1	0.5	0.5									47.5
新愛國	20	4	2	1	2	1	2	4	2	2.5	2	2				3		2
銀葉						1						1						3.8
新二本			1	2					0.3	0.5						3	2	5
石白																		13
新石白		1	2	3		3	1	1	1.5	0.5								
計	40	20	20	20	2	10	10	10	8	8	8	5	20	5	6	10		202

備考 (一) 新潟、長岡、高田ノ三市ハ經營セズ
 (二) 北蒲原郡ニケ所、岩船郡三ヶ所ノ外各郡一ヶ所宛ニシテ計十九ヶ所ナリ

□、採種不能トシテ廢棄セル反別

直營トセル結果廢棄セルモノナシ

ハ、生産種籾配付數量

郡名	北蒲原郡	中蒲原郡	西蒲原郡	南蒲原郡	東蒲原郡	古志郡	三島郡	刈羽郡	北魚沼郡	南魚沼郡	中魚沼郡	東頸城郡	中頸城郡	西頸城郡	岩船郡	佐渡郡	合計
反別	40	20	20	20	2	10	10	10	8	8	8	5	20	5	6	10	202
生産種籾數量	120	60	60	60	6	30	30	30	24	24	24	15	60	15	18	30	606

備考 反當三石トス

米採種圃ニ關シ施行セシ重ナル事項

(一) 經營ニ關スル事項

(イ) 協議會

米採種圃ノミニアラザルモ米ニ關スル事項主タルヲ以テ本項ニ記載ス

(a)、四月五日ヨリ七日迄三日間開催ノ郡市技術員會ニ於テ注意事項トシテ經營、技術、生産種子配付ノ三項ニ付詳細ニ事業遂行上遺憾ナキ様

注意セリ

(b) 九月廿八、九兩日ニ亙リ各郡市採種圃主務者協議會ヲ開催シ協議事項トシテハ

獎勵原種普及計劃ニ關スル件

郡制廢止後ニ於ケル採種圃經營ニ關スル件

ヲ附議シ既ニ施行セル實況ニ鑑ミ經營、技術、種籾配布、其他ニ付詳細注意セリ

(ロ) 宣傳講演會

各郡市ニ於テ栽培セル現地ニ於テ當業者ヲ集メ本場ヨリ講師ノ派遣ヲ乞ヒ宣傳講演會ヲ開催セルハ西蒲原郡外五郡ニシテ其他ノ郡ニ於テハ特ニ開催セザルモ各種ノ機會ニ講演ヲナシ或ハ宣傳書ヲ配付セリ

(ハ) 印刷物

大正十年度主要食糧農作物採種圃一覽ヲ作製配布セリ

(二) 指導監督ニ關スル事項

(イ) 苗代期

播種後本場係員ヲ派遣シ諸般ノ調査ヲナシ管理其他ニ付指導監督セリ

(ロ) 異變種除去

出穂後各現地ニ本場係員ヲ派遣シ實地ニ付指導監督ヲ行ヒタリ

(ハ) 生産籾検査

一部ヲ除クノ外係員ヲ派遣シ検査ヲ施行セリ

第二麥採種圃

郡農會經營トシ西蒲原、南蒲原ノ二郡ニ設置セリ、而シテ其ノ方法ハ其管内ニ於ケル精農家ヲ選ビ擔當料ヲ支給シ委託栽培セリ其成績下ノ如シ

品種別栽培反別及生産配付數量

種目	反別	生産配付量	備考
西蒲原郡	長岡	8.0	9.20
	今朝白	2.0	3.90
	赤皮赤	3.0	3.20

南蒲原郡	飛騨	1.5	.40	病害ノタメ飛騨一反六角
	六角シユバリー	1.5	.97	シユバリー五畝採種セズ
	横澤	1.0	.50	
	マーチンスアンバー	1.0	.70	
合計	大麥	13.0	14.47	
	小麥	5.0	4.40	
計		18.0	18.87	

尙麥採種圃ニ關シ施行セル重ナル事項次ノ如シ

- (イ) 反當六圓宛經營者郡農會ニ對シ補助金ヲ交付セリ
- (ロ) 原種ハ本場ヨリ無償配付セリ
- (ハ) 播種後係員ヲ派遣シ實地指導監督セリ又出穂期ニ於テハ異變種除去指導トシテ係員ヲ派遣シ特ニ純良種子生産上遺憾ナキヲ期セリ
- (ニ) 以上ノ外總テ米採種圃ニ準ジタリ

第三大豆採種圃

郡市農會ノ經營トシテ面積十四町三反歩ヲ設置セリ、經營方法ハ總テ其管内ニ於ケル精農家ヲ選ビテ擔當料ヲ支給シ委託栽培ヲ行ヒタリ、箇所ハ百十二ヶ所ニシテ其成績次ノ如シ

イ、郡市別品種別反別

品種名	北蒲原	中蒲原	西蒲原	南蒲原	東蒲原	三島	古志	北魚沼	南魚沼	中魚沼	刈羽	東頸城	中頸城	西頸城	岩船	佐波	新潟	長岡	高田	計
水 潜	—	3	6	3	2	3	4	3	3	3	3	2.5	2	2	3	3	—	—	—	46.5
刈羽瀧谷	3	1	5	1	—	—	3	—	—	1	2	—	—	—	1	—	1	—	—	18.0
生 娘	—	2	5	1	2	3	—	2	3	2	1	3	5	—	3	4	—	—	—	36.0
岩船瀧谷	5	2	—	1	1	2	—	2	2	2	—	1.5	1.5	3	4	—	—	—	—	27.0
赤 茨	2	2	—	—	1	—	—	1	2	2	—	2.5	1	—	—	3	—	—	—	15.5
計	10	10	16	6	6	8	7	8	10	10	6	10	10	6	10	10	—	—	—	143.0

ロ、純良種子生産不能ノ爲メ廢棄セル反別

品種名	西蒲原郡	東蒲原郡	古志郡	刈羽郡	合計
水 潜	—	1.0	—	.8	3.7
生 娘	—	—	—	.5	1.5
刈羽瀧谷	1.6	—	—	.2	1.8

岩船瀧谷	—	—	—	—	—
赤 茨	—	—	—	—	—
計	2.6	.4	2.5	1.5	7.0

ハ、品種別生産配付數量

種 目	採種反別	生産配付數量	備 考
水 潜	42.8	51.36	反當一石二斗採種
生 娘	34.5	41.40	
刈羽瀧谷	16.2	19.44	
岩船瀧谷	27.0	32.40	
赤 茨	15.5	18.60	
合計	136.0	163.20	

大豆採種圃ニ關シ施行セシ重ナル事項

- (イ) 大豆採種圃經營ニ對シ各郡市農會ニ本場ヨリ反當六圓ノ補助金ヲ交付セリ
- (ロ) 原種ハ本場ヨリ無償配付セリ
- (ハ) 指導ハ郡市又ハ郡市農會技術員之ニ當リタルモ異變種除去等ニ付テハ本場ヨリ係員ヲ派遣シ指導監督セリ
- (ニ) 以上ノ外總テ米採種圃ニ準ゼリ

第四甘藷、馬鈴薯採種圃

郡市農會ノ經營トシテ甘藷ハ四町一反三畝歩、馬鈴薯一町六反七畝歩設置セリ、經營方法ハ大豆採種圃ト等シク管内精農家ニ委託シ擔當料ヲ支給セリ

甘藷四十二ヶ所、馬鈴薯二十五ヶ所ニシテ其成績次ノ如シ

イ、郡市別品種別反別

品種名	北蒲原	中蒲原	西蒲原	南蒲原	東蒲原	三島	古志	北魚沼	南魚沼	中魚沼	刈羽	東頸城	中頸城	西頸城	岩船	佐波	新潟	長岡	高田	計
甘藷 紅赤	5	2	2	2	2	4	—	5	2	—	—	2	3	1.5	4	.5	.3	—	.5	35.8
甘藷 金時	—	—	—	—	1	3	—	—	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	5.0
甘藷 八幡	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	.5	—	—	—	.5
計	5	2	2	2	3	7	—	5	3	—	—	2	3	1.5	4	1	.3	—	.5	41.3

馬鈴薯	ア-リ-ローズ	4	2	.5	.5	.5	.5	1	.5	1	—	.5	.5	2	.4	.4	—	—	.4	15.2
	其他	—	—	—	—	—	—	—	—	1	.5	—	—	—	—	—	—	—	—	1.5
	計	4	2	.5	.5	.5	.5	1	.5	2	.5	.5	.5	2	.4	.4	—	—	.4	16.7

ロ、採種不能トシテ廢棄セル反別

品 種 名	北蒲原郡	西蒲原郡	南蒲原郡	三島郡	東頸城郡	合 計
甘藷 紅 赤	反 1.0	反 1.9	反 .5	反 .8	反 .3	反 4.5
馬鈴薯 ア-リ-ローズ	1.0	—	—	—	—	1.0

ハ、品種別生産配付數量

種 目	採 種 反 別	生 産 配 付 數 量	
甘 藷	紅 赤	反 31.3	實 7,875.000
	金 時	5.0	1,250.000
	八 幡	.5	125.000
	合 計	36.8	9,250.000
馬 鈴 薯	ア-リ-ローズ	14.2	3,550.000
	其 他	1.5	375.000
	合 計	15.7	3,925.000

甘藷馬鈴薯採種圃ニ關シ施行セシ重ナル事項次ノ如シ

- (イ) 採種圃用原種ハ本場ヨリ無償配付セリ
- (ロ) 異變種除去等ニ對シテハ本場ヨリ係員ヲ派遣シ指導監督セリ
- (ハ) 反當拾圓ノ補助金ヲ郡市農會ニ交付セリ
- (ニ) 以上ノ外總テ米採種圃ニ準ゼリ

種 子 配 付 之 部

原種圃生産種子以外ニシテ配付シタルモノハ水稻山崎糯一斗七升御膳糯二斗八升ナリ

園 藝 部

蔬菜ノ部

第一 茄子品種試験 (繼續第二年)

從來試験ノ結果優良ト認メラタル品種ニ更ニ新品種ヲ加ヘ比較試験ヲ行ヒ本縣ニ最モ適スル品種ヲ選擇セントスルニアリ、本年度ノ試験成績次ノ如シ

品 種 名	反當重量	全 個 數	累年平均成績	
			重 量	個 數
中 生 山 茄	1,109.500	74.800	1,346.800	96.850
帶 紫	1,600.000	99.600	1,695.150	109.000
行 德	1,370.000	84.000	1,564.300	108.150
窪 田 茄	1,070.000	73.300	1,223.950	80.850
民 田 茄	955.400	70.200	1,084.150	75.200
蔓 細 干 成	1,311.300	93.100	1,311.300	93.100
魚 沼 巾 着	1,161.130	92.300	1,018.565	70.000
改 良 巾 着	1,023.390	46.300	1,368.195	59.100

以上ノ成績ニヨレバ帶紫收量最モ多ク、行德之ニ次ギ、以下蔓細、魚沼巾着、中生山茄、窪田茄、改良巾着ノ順位ヲ示シ民田茄最モ收量少シ

第二 茄子鹽素刺戟效果試験 (繼續第三年)

茄子種子ヲ味噌中ニ貯藏シ播種スルトキハ收量多シト稱シ農家ニ於テ行ハレツ、アルモノナルガ之レ鹽素ノ刺戟ニ依ルモノ、如シ、故ニ食鹽水ヲ作り其中ニ種子ヲ浸漬シテ液ノ濃淡及浸漬期間ノ長短ガ收量ニ幾許ノ影響アルヤヲ知ラントス、供試品種ハ中生山茄ニシテ試験別及成績次ノ如シ

試 驗 別	收穫始	全 終	反當收量		立枯病ノ被害歩合
			重 量	個 數	
標 準 區	6.27	10.11	930.798	67.167	—
水三合ニ食鹽五勺液ニ七十日浸漬	7. 1	10.11	1,499.454	101.117	—
水三合ニ食鹽二勺五勺液ニ全期間浸漬	7. 1	10.11	1,241.567	99.990	—
水三合ニ食鹽一勺液ニ全期間浸漬	6.27	10.11	1,580.563	100.120	3.7
水三合ニ食鹽五勺液ニ四十日間浸漬	7. 1	10.11	1,494.033	94.447	—
水三合ニ食鹽二勺五勺液ニ全期間浸漬	7. 4	10.11	1,421.130	88.178	—
水三合ニ食鹽一勺液ニ全期間浸漬	7. 1	10.11	1,434.450	92.513	—
水三合ニ鹽化滿飽五勺液ニ百廿日浸漬	7. 4	10.11	1,520.226	96.915	—

以上ノ成績ニ依レバ各區トモ標準區ニ比シ收量多ク鹽素刺戟ノ効果アルヲ示セルモ成績區々ニシテ劃然タラズ累年ノ成績ニヨルモ一定ノ結論ヲ下シ難ク收穫期ノ早晚ハ之レヲ本年度並ニ累年ノ成績ニ依ルニ各鹽素加用區ニ比シ標準區ノ稍早キヲ見ルナリ

第三 甘藷品種試驗 (繼續第四年)

本試驗ハ各地方ニ於テ優良ト稱セラル、品種ヲ集メ試作ヲ行ヒ以テ本縣ニ適スル優良種ヲ選擇セントスルニアリ、供試品種並ニ收量下ノ如シ

品 種 名	反 當 收 量		累 年 平 均 反 當 重 量
	重 量	個 數	
紅 赤	302.600	6.300	432.988
屋 久 島	514.500	9.100	565.695
川 越 赤	347.200	13.400	508.11g
金 時	680.000	12.800	586.899
栗 藪 無	423.500	14.700	536.40
蔓 州	747.200	13.800	784.314
三 州	553.300	12.300	459.568
チヤボ	699.500	9.100	699.500
石 川 産 金 時	438.100	7.500	464.232
紅 藪	527.200	8.100	571.749
相 州 白	379.000	6.900	611.504
源 氏	338.000	13.500	333.665
千 葉 赤	338.000	8.500	425.584
紫 藪	703.000	9.500	630.800

成績比較一覽表

比較項目	紅赤	金時	屋久島	栗藪	蔓無	三州	チヤボ	石川産金時	紅藪	相州白	源氏	千葉赤	紫藪	川越赤
本年度平均收量順位	14	4	7	9	1	5	3	8	6	10	12	13	2	11
本年度試食風味順位	1	3	6	4	14	9	13	2	8	10	7	12	11	5
累年平均收量順位	12	5	7	8	1	11	2	10	6	4	14	13	3	9
平均年數	4	4	4	4	4	4	1	4	4	2	4	3	2	4

以上ノ成績ニ依レバ概シテ收量ノ多少ト風味ノ良否トハ相反スルモノ、如ク風味良好ナルモノハ紅赤、金時、川越赤等ニシテ收量多キハ蔓無シ、紫藪、チヤボ等ナリ、而テ收量並ニ品質ノ二點ヲ考察シテ優良種ト認ムベ

キモノハ紅赤、金時、屋久島、栗藪等ナルベシ

第四 甘藷純系淘汰試驗 (繼續第三年)

從來栽培セル品種中ヨリ優良ナル系統ヲ選抜センガ爲メ行フモノニシテ紅赤、金時ノ二品種ヲ供試用トシ、前年度各系統ノ特性ヲ調査シタル者ヨリ更ニ優良系統ヲ選擇セリ、明年度普通系統トノ比較試驗ヲ施行シテ原種トセントス

第五 甘藷貯藏試驗 (繼續第三年)

本縣ニ於ケル甘藷栽培面積ハ近時大ニ増加セリト雖モ尙ホ之レガ栽培ノ遅々トシテ長足ノ發達ヲ遂ゲザルハ本縣ノ風土冬季濕潤加之寒冷ナルタメ貯藏ノ困難ナルニ基因スト云フ可シ本年度ニ於テハ中魚沼郡芦ヶ崎村及ビ中條村ノ二個所ニ貯藏窖ヲ新設シ試驗ヲ施行セリ

イ、芦ヶ崎村貯藏窖

本窖ハ斷崖ニ設置セラレタル横窖ニシテ幅三尺、高サ四尺、延長本線五間一尺、第一支線四間、第二支線一間半、第三支線一間半、第四支線一間半總延長十三間四尺ニ達ス、供試品種ハ紅赤種ニシテ各支線内ニ於テ試驗施行セルモノニシテ種藪ノ積重ネノ厚サ、石油空箱ニ粗穀ト種藪ト共ニ入レタルモノ、直接入レタルモノ、石灰乳ニ浸漬シテ後入レタルモノ及ビ俵ニ種藪ヲ直接入レタルモノニ就キ施行シ、大正十年十月廿九日貯藏シ、大正十一年四月廿二日開窖調査シタルニ種藪ヲ二尺以内ノ厚サニ積重ネタルモノ、石油空箱ニ粗穀ト種藪ト共ニ入レタルモノ、直接入レタルモノ及ビ俵ニ入レタルモノ何レモ腐敗歩合五%以内ニシテ成績可良ニシテ石灰乳ニ浸漬シタルモノハ腐敗歩合八%内外ニシテ稍腐敗歩合多キヲ見タリ以上ノ成績ニ依リ更ニ之レヲ累年ノ成績ニヨリ見ルモ横窖ニ依リテ殆ンド完全ニ甘藷ヲ貯藏シ得ルコトヲ知り得タリ、尙本試驗ハ繼續施行セントス

ロ、中條村屋内貯藏窖

本窖ハ屋内爐端ヲ爐邊ヨリ八寸ヲ距テ、幅一尺五寸、二尺及ビ二尺五寸長サ各三尺、深サ各三尺五寸ノ三個ノ堅窖ヲ設置シテ試驗施行セリ、供試品種ハ在來種ニシテ大正十年十月三十日貯藏シ、大正十一年四月十六日開窖調査セリ

- (一) 堅密ニ於テハ窖ノ底部及周圍ニ粗穀ヲ入レ石油空箱ニ種蒔ト粗穀ト共ニ入レタルモノ、種蒔ヲ直接入レタルモノ及ビ俵ニ種蒔ヲ直接入レタルモノニツキ試験施行シタルモノニシテ石油空箱ニ粗穀ト種蒔ト共ニ入レタルモノ腐敗セルモノナク俵入レノモノ腐敗歩合少ク、石油空箱ニ種蒔ヲ直接入レタルモノ腐敗歩合稍多キヲ見タリ
- (二) 堅密ニ於テハ粗穀ト種蒔トヲ交互ニ積重ネタルモノニシテ腐敗歩合少ク良好ナル成績ヲ示セリ
- (三) 堅密ニ於テハ窖ノ底部ニ二寸厚サニ粗穀ヲ敷キ其上ニ種蒔ヲ厚サ一尺五寸ニ積重ネ其上ニ更ニ粗穀ヲ以テ覆ヒタルモノニシテ種蒔ノ外皮水濕ヲ帶ビテ腐敗歩合多ク成績不良トス、尙本試験ハ繼續施行セントス

第六 蘿蔔品種試驗 (繼續第四年)

本縣ニ於テ最モ適スル蘿蔔品種ヲ選擇センガタメ各地ニ於ケル優良品種ヲ蒐集シ比較栽培セントスルニアリ、供試品種及成績次ノ如シ

試驗別	本年度 反當收量	大正九年度 反當收量	大正八年度 反當收量	大正七年度 反當收量	累年平均 反當收量
御器所	736.400	1,504.440	427.500	1,156.620	956.240
早生方領	910.600	1,112.400	564.000	1,061.580	912.145
宮重	1,407.500	1,793.025	1,308.000	1,664.700	1,543.306
鞍馬口	932.400	1,450.725	—	—	1,191.562
聖護院	965.900	1,564.275	—	—	1,265.087
白上	890.000	1,327.650	573.000	695.520	871.542
白島	1,205.300	1,798.350	—	—	1,501.825
春福	675.000	1,222.950	599.250	—	832.400

以上ノ成績ニ依レバ收量最モ多キハ宮重ニシテ白島之レニ次ギ聖護院、鞍馬口、方領、白上、御器所ノ順ヲ示シ春福最モ少シ、本試験ハ尙繼續施行セントス

第七 蘿蔔鬆入試驗 (繼續第五年)

本試験ハ本縣蘿蔔ノ鬆入多ク品質ヲ害スルコト少ナカラザレドモ其原因不明ナルヲ以テ其原因及豫防法ヲ知ランガタメ次ノ各項ニ區別施行セリ成績次ノ如シ

4、播種期トノ關係試驗 (繼續第四年)

試驗別	本年度 鬆入歩合	大正九年度 鬆入歩合	大正八年度 鬆入歩合	大正七年度 鬆入歩合	累年平均 鬆入歩合
七月中旬	5.0	37.0	—	—	10.6
七月下旬	10.0	31.5	—	—	10.4
八月上旬	5.0	33.1	—	—	9.5
八月中旬	—	29.4	37.5	12.0	19.7
八月下旬	—	20.9	12.5	3.8	9.3
九月上旬	—	17.7	2.0	2.3	5.5

以上ノ成績ニ依レバ播種期ノ早キモノ程鬆入歩合多キヲ知ル

ロ、種子トノ關係試驗 (繼續第五年)

試驗別	本年度 鬆入歩合	大正九年度 鬆入歩合	大正八年度 鬆入歩合	大正七年度 鬆入歩合	大正六年度 鬆入歩合	累年平均 鬆入歩合
新種子	10.0	24.2	30.0	22.0	—	17.2
前年種子	15.0	25.0	41.1	17.0	40.0	27.6
大粒種子	7.5	25.3	35.0	22.0	30.0	23.9
中粒種子	7.5	22.4	30.0	28.0	20.0	21.6
小粒種子	—	21.1	42.5	11.0	80.0	30.9
比重大種子	5.0	16.5	35.0	18.0	40.0	22.9
比重小種子	—	11.9	32.5	22.0	30.0	19.3
標準	10.0	—	—	—	—	2.0

ハ、追肥回数トノ關係試驗 (繼續第五年)

試驗別	本年度 鬆入歩合	大正九年度 鬆入歩合	大正八年度 鬆入歩合	大正七年度 鬆入歩合	大正六年度 鬆入歩合	累年平均 鬆入歩合
二回分施	—	43.2	32.5	35.0	40.0	30.1
三回分施	—	38.5	42.5	22.0	42.0	29.0
四回分施	—	39.2	45.0	26.0	40.0	30.0
五回分施	5.0	29.8	25.0	6.0	30.0	19.1
六回分施	10.0	36.0	27.5	16.0	20.0	21.9
七回分施	—	27.8	35.0	35.0	20.0	23.7

以上ノ成績ニ依レバ本年度ハ各區共鬆入歩合甚ダ少ク追肥分施回数ノ少キ程反テ鬆入歩合少キヲ見レドモ之レヲ累年成績ヨリ見レバ反對ノ成績ヲ示シ分施回数多キ程鬆入歩合ノ少キヲ見ル

ニ、收穫期トノ關係試驗 (繼續第五年)

試験別	本年度 鬆入歩合	大正九年度 鬆入歩合	大正八年度 鬆入歩合	大正七年度 鬆入歩合	大正六年度 鬆入歩合	累年平均 鬆入歩合
十月二十七日	27.3	10.2	7.5	10.0	40.0	19.0
十一月一日	6.4	12.5	17.5	11.0	10.0	11.5
十一月五日	6.4	21.6	35.0	—	—	12.6
十一月十日	2.0	12.6	22.5	22.0	—	11.3
十一月十五日	5.8	14.9	20.0	16.0	—	15.8
十一月二十日	4.6	33.3	25.0	16.0	—	15.8
十一月二十五日	1.8	18.5	45.0	—	40.0	21.1
十一月三十日	6.9	19.5	27.5	21.0	40.0	22.9

以上本年度ノ成績ニ依レバ十一月二十五日及ビ十一月十日收穫ノモノ鬆入歩合少ク其成績區々ニシテ一定ノ結論ヲ下シ難シ、本試験ハ尙繼續施行セントス

ホ、品種トノ關係試験 (新設)

本試験ハ蘿蔔各品種ニヨリ鬆入ニ關係アルベキヲ以テ其關係ヲ知ラントスルニアリ

試験別	御器所	早生方	生方領	宮重	白上り	鞍馬口	聖護院	島
鬆入歩合	25.0	2.5	15.0	12.5	5.0	5.0	5.0	12.5

以上ノ成績ニ依レバ早生方領鬆入歩合最モ少ク、鞍馬口、聖護院之ニ次ギ以下島、白上り、宮重、御器所ノ順位ヲ示セリ

第八 結球白菜品種試験 (繼續第四年)

本試験ハ從來試験ノ結果優良ト認メタル品種ニ新品種ヲ加ヘ比較栽培ヲナシ本縣ニ最モ適スル品種ヲ選擇セントスルニアリ、供試品種及收量次ノ如シ

試験別	本年度 反當收量	大正九年度 反當收量	大正八年度 反當收量	大正七年度 反當收量	累年平均 反當收量
金州	1,773.300	1,654.000	2,476.400	1,096.150	1,749.962
開城	1,393.300	818.167	1,274.667	—	1,162.045
直隸	1,192.000	1,586.000	2,053.467	1,282.100	1,528.392
茨城	740.000	1,439.233	1,997.000	—	1,392.078
芝罘	1,551.300	2,150.884	1,996.667	1,068.650	1,691.875
抱頭連	1,391.400	1,288.500	1,946.333	666.650	1,324.221

以上ノ成績ニ依レバ金州、芝罘、開城、抱頭連收量多ク、直隸、茨城之レニ次グ、之レヲ累年成績ニヨリテ見ルニ金州、芝罘、直隸等優良ナル成績ヲ示セリ

第九 白菜肥料種類試験 (繼續第二年)

本試験ハ普通追肥トシテ使用セラル、下記五種ノ肥料中何レガ最モ經濟的ナルヤヲ知ルト共ニ病虫害ニ對スル影響ヲモ併セ知ラントス、供試品種ハ金州白菜ニシテ成績次ノ如シ

試験別	反當收量	反當 病株數	反當 肥料價格	單價	總收入ヨリ肥料 代ヲ引キタル額
人糞尿	575,000	60	80,500	14	61,250
米糠	865,000	70	121,100	14	80,290
油粕	985,000	25	137,900	14	101,920
硫酸アムモニア	677,500	25	97,650	14	78,970
智利硝石	862,500	65	120,750	14	105,560

本年度ハ氣候ノ關係上腐敗病ノ發生著シク從ツテ各肥料種類ニ依ル收量成績區々ニシテ一定ノ結論ヲ下シ難シ、而シテ各區病株數ノ歩合ト肥料種類ノ關係ニツキテ見ルニ油粕、硫酸兩區被害歩合最モ少ク人糞尿、智利硝石、米糠ノ各區之ニ次グヲ見ル、本試験ハ尙繼續施行セントス

委託試験ノ部

第一 歐洲葡萄特性調査

北蒲原郡築地村佐藤佐忠次氏ニ委託シテ「カワラフレツシ」「シヤスラローズ」「スイートウオター」「フオスターズシードリング」「ブラツクハンバーク」「龍眼」「ゴールドクイン」「ゴールドンチャンピオン」ノ八品種ニ就キ特性調査ヲ施行シタリ

第二 歐洲葡萄ゴールドクイン收支調査

北蒲原郡築地村佐藤佐忠次氏ニ委託シテ歐洲葡萄「ゴールドクイン」種ニ就キ收支調査ヲ施行シタリ、五年生反當(百四十本植)收支次ノ如シ

總收入	總支出	差引純益
485,000	205,000	280,000

Table 1: Data for the first table, including columns for various parameters and values.

Table 1: Data for the first table, including columns for various parameters and values.

Table 2: Data for the second table, including columns for various parameters and values.

Table 2: Data for the second table, including columns for various parameters and values.

Table 3: Data for the third table, including columns for various parameters and values.

Table 3: Data for the third table, including columns for various parameters and values.

Table 4: Data for the fourth table, including columns for various parameters and values.

Table 4: Data for the fourth table, including columns for various parameters and values.

Table 5: Data for the fifth table, including columns for various parameters and values.

Table 5: Data for the fifth table, including columns for various parameters and values.

農藝化學部

木 框 試 験 ノ 部

第 一 天 然 供 給 量 試 験 (繼 續 第 九 年)

本試験ハ水稻生育中土壤及灌溉水ヨリ天然ニ供給セラル、三要素量ヲ知ラントスルニアリ、其成績ハ次ノ如シ

試 験 區 別	反 施 用 量	葉	枇	穀 實	平 均	
					葉	穀 實
1 完全區	硫 安	5				
	過 磷 酸	5	212.5	1.0	162.5	221.6
	硫 酸 加 里	5				160.3
2 無窒素	硫 安	—				
	過 磷 酸	5	62.0	1.0	113.0	108.8
	硫 酸 加 里	5				104.0
3 無磷酸	硫 安	5				
	過 磷 酸	—	207.0	2.0	150.0	208.5
	硫 酸 加 里	5				138.0
4 無加里	硫 安	5				
	過 磷 酸	5	125.0	2.5	97.0	206.9
	硫 酸 加 里	—				118.0
5 無肥料	硫 安	—				
	過 磷 酸	—	65.5	0.5	123.5	94.8
	硫 酸 加 里	—				92.6

成績概要、九ケ年ノ平均ニヨレバ完全區成績最モ優良ニシテ無磷酸區、無加里區、無窒素區ノ順次ニ其ノ收量ヲ減ズ

第 二 有 機 質 肥 料 ノ 地 力 ニ 及 ボ ス

影 響 試 験 (繼 續 第 二 年)

本試験ハ各種有機質肥料ノ地力ニ及ボス影響ヲ試験セントスルモノニシテ其ノ成績ハ次ノ如シ

試 験 區 別	反 施 用 量	葉	枇	穀 實	平 均	
					葉	穀 實
1 堆 肥 區	400,000	138.0	1.0	128.0	168.0	118.4

区別	肥料	堆肥	大豆	野草	木灰	雲英	籾	粉	安	加里	平均穀實
2	堆肥	200.000									
	大豆	12.000	125.0	1.0	136.0	170.0	138.3				
	野草	3.000									
3	堆肥	10.000									
	大豆	200.000	107.0	0.5	120.0	169.7	170.2				
	野草	15.000									
4	堆肥	4.000									
	大豆	11.000	131.0	1.0	123.5	161.0	116.2				
	野草	209.000									
5	堆肥	12.000									
	大豆	4.500	93.0	0.5	105.5	137.2	104.4				
	野草	13.000									
6	堆肥	160.000									
	大豆	15.000	103.0	1.0	121.5	154.0	140.2				
	野草	4.700									
7	堆肥	0.800									
	大豆	30.000	143.5	0.5	130.5	173.8	145.3				
	野草	4.000									

備考 一、窒素ハ反當二貫目ト定メ其二貫目ノ内一貫目ヲ野草雲英堆肥等ノ自給肥料ニテ施シ他ノ一貫目ノ窒素ハ大豆籾等ヲ以テ施セリ
 二、燐酸及加里ハ反當二貫目ト定メ野草ノ如キ自給肥料中ニ於ケル燐酸及加里ノ不足分ハ骨粉又ハ木灰ニテ施セリ

成績概要、自給肥料中最モ收量大ナルハ第三區野草、大豆籾區ニシテ最モ收量劣レルハ第五區生葉ヲ施セルモノナリ、其他ハ收穫量ニ於テ之等兩者ノ中間ニアルヲ見ル

圓筒試驗ノ部

第一 石灰窒素施用法試驗 (繼續第二年)

本試驗ハ石灰窒素ヲ施用スルニ當リ如何ナル施用法ニヨルベキヤヲ知ラントスルモノニシテ其成績ハ次ノ如シ

試驗區別	反當施用量	率	批	穀實	平均穀實	
					區	實
1 { 硫 過 燐 酸 加 里 安 酸	—	—	—	—	—	—
	2.0	21.0	0	22.5	19.2	19.4
	2.0	—	—	—	—	—
2 { 硫 過 燐 酸 加 里 安 酸	2.5	—	—	—	—	—
	2.0	28.5	5.0	25.5	23.9	22.3
	2.0	—	—	—	—	—
3 { 石灰窒素一週前施用 硫 過 燐 酸 加 里 安 酸	2.5	—	—	—	—	—
	2.0	17.5	0	14.5	14.8	13.8
	2.0	—	—	—	—	—
4 { 硫 過 燐 酸 加 里 安 酸	2.5	—	—	—	—	—
	2.0	29.5	5.0	28.0	24.0	24.0
	2.0	—	—	—	—	—
5 { 硫 過 燐 酸 加 里 安 酸	2.5	—	—	—	—	—
	2.0	25.0	0	24.0	20.5	22.1
	2.0	—	—	—	—	—
6 { 硫 過 燐 酸 加 里 安 酸	2.5	—	—	—	—	—
	2.0	21.5	10.0	21.0	20.8	21.5
	2.0	—	—	—	—	—
7 { 硫 過 燐 酸 加 里 安 酸	2.5	—	—	—	—	—
	2.0	26.5	5.0	22.0	20.6	18.1
	2.5	—	—	—	—	—
8	—	19.5	5.0	18.0	16.8	17.0
9	—	22.0	0	20.5	17.0	17.8
10	—	19.5	5.0	19.0	16.6	17.3
11	—	26.0	0	26.5	18.9	19.4
12	—	26.0	0	25.5	18.8	20.3
13	—	32.0	5.0	27.0	22.5	21.0

成績概要、本年ノ成績ニヨレバ「ヂシヤンヂアミド」ノ全量ヲ植付一週間前施用セシモノ收量最モ大ナリ

第二 鹽害豫防法試驗 (繼續第三年)

本試驗ハ鹽化曹達ノ水稻ニ及ボス有害程度ヲ查定スルト共ニ之ガ除害法ヲ知ラントスルモノニシテ其ノ成績ハ次ノ如シ

試 驗 區 別	薬	批	穀 實	平 均	
				薬	穀 實
1 標 準 區	21.0	0	19.5	20.6	13.9
2 鹽 化 曹 達 0.01 % 加 用 區	25.5	0	23.0	22.7	14.8
3 鹽 化 曹 達 0.05 % 加 用 區	24.0	6.0	23.0	25.3	15.5
4 鹽 化 曹 達 0.1 % 加 用 區	22.5	0	22.0	12.9	12.0
5 鹽 化 曹 達 0.2 % 加 用 區	23.5	0	23.5	14.1	14.0
6 鹽 化 曹 達 0.01 % 鹽 化 石 灰 = 變 換 糠 石 灰 加 用	26.0	0	23.5	22.6	15.9
7 鹽 化 曹 達 0.05 % 鹽 化 石 灰 = 變 換 糠 石 灰 加 用	25.5	5.5	21.0	17.6	20.8
8 鹽 化 曹 達 0.1 % 鹽 化 石 灰 = 變 換 糠 石 灰 加 用	27.0	0	26.5	16.3	16.4
9 鹽 化 曹 達 0.2 % 鹽 化 石 灰 = 變 換 糠 石 灰 加 用	28.5	11.0	20.0	16.4	13.5

備考 肥料各區ニ於ケル窒素磷酸及加里ハ反當三貫目ノ割合ニ硫安、過磷酸石灰及硫酸加里ヲ以テ施セリ

成績概要、本年度ノ成績ニ於テ著シク前年度ト異ナルハ鹽化曹達ノ下層土ニ滲透シタルタメ表土ニ於ケル其濃度稀薄ニナリシタメナラン

第 三 米 糠 施 用 法 試 驗 (繼 續 第 五 年)

本試験ハ米糠ヲ施用スルニ當リ如何ナル施用法ニヨルベキヤヲ知ラントスルモノニシテ其成績ハ次ノ如シ

試 驗 區 別	薬	批	穀 實	平 均	
				薬	穀 實
米 糠 其 儘 施 用	29.0	6.0	27.0	34.5	31.5
施用前一週間腐敗	27.5	0	25.0	34.0	30.0
施用前二週間腐敗	30.0	0	28.0	35.2	27.0
施用前三週間腐敗	30.5	3.0	29.5	34.1	28.5
骨 粉 施 用	22.5	0	23.0	38.2	32.8

成績概要、米糠ハ其儘施用セルモノ最モ成績優良ニシテ長時日腐敗セシメタルモノハ成績不良ナリ

第 四 磷 酸 質 肥 料 試 驗 (繼 續 第 六 年)

本試験ハ主要ナル磷酸肥料ニツキ其肥効ヲ知ラントスルモノニシテ試験ヲ甲、乙ニ區別シ窒素ヲ硫安ニテ供給セシモノト石灰窒素ニテ供給セシモノトセリ其成績ハ次ノ如シ

甲、硫安ヲ基礎トセルモノ					乙、石灰窒素ヲ基礎トセルモノ						
試 驗 區 別	薬	批	穀 實	平 均	試 驗 區 別	薬	批	穀 實	平 均		
				薬					穀 實	薬	穀 實
過 磷 酸	23.0	0	22.5	31.6	27.7	過 磷 酸	21.5	5.0	20.5	34.9	31.9
骨 粉	24.5	5.0	23.0	31.0	30.1	骨 粉	22.5	0	22.0	29.9	30.5
米 糠	22.5	0	23.5	26.8	22.6	米 糠	21.0	5.0	18.5	28.6	28.0
磷酸アルミナ	31.5	5.0	27.0	22.5	20.8	磷酸アルミナ	26.0	10.0	23.0	19.0	19.4
アンモース	34.5	0	30.0	24.8	23.2	アンモース	26.0	5.0	28.0	20.2	22.3

成績概要、窒素質肥料トシテ硫安ヲ用キタル場合ニハ其成績ハ骨粉、過磷酸、米糠ノ順次ニシテ石灰窒素ヲ用キタル場合ニハ過磷酸、骨粉、米糠ト順次ニ其成績劣レリ、磷酸アルミナ及アンモースハ第二年目ノ試験ニシテ其成績ハ確タルモノニアラザルモ相當ノ肥効ヲ呈スルモノ、如シ

第 五 窒 素 及 磷 酸 適 量 試 驗 (新 設)

本試験ハ水稻ニ對スル窒素及磷酸ノ適量ヲ查定セントスルモノニシテ其試験成績ハ次ノ如シ

窒 素 區			磷 酸 區				
試 驗 區 別	薬	批	穀 實	試 驗 區 別	薬	批	穀 實
1 窒素1貫目	24.5	0	22.5	1 磷酸1貫目	28.0	9.0	22.5
2 窒素2貫目	24.0	0	23.5	2 磷酸2貫目	21.0	0	19.0
3 窒素2.5貫目	29.0	0	27.5	3 磷酸2.5貫目	29.0	4.5	23.5
4 窒素3貫目	28.0	0	25.5	4 磷酸3貫目	28.5	4.5	24.0
5 窒素3.5貫目	21.0	0	19.0	5 磷酸3.5貫目	32.5	9.0	25.5
6 窒素4貫目	28.0	0	20.5	6 磷酸4貫目	32.0	4.5	27.5

備考 窒素區ニ於ケル磷酸、加里並ニ磷酸區ニ於ケル窒素、加里ハ各反當4貫目ヲ施用セリ

成績概要、本年度ノ成績ニヨレバ窒素區ニ於テ窒素二貫五百匁區最モ收量大ニシテ施用量ヲ増スニ從ヒ漸減スルヲ見ル磷酸區ニ於テハ磷酸四貫目區最モ收量大ナリ

第 六 磷 酸 形 態 試 驗 (新 設)

本試験ハ各種磷酸化合物ノ稻作ニ及ボス影響ヲ查定セントスルモノニシテ其成績ハ次ノ如シ

試験區別	薬	批	穀	實
1 無 磷 酸	28.0	0	22.0	22.0
2 磷 酸 一 石 灰	21.5	0	20.5	20.5
3 磷 酸 二 石 灰	20.5	5.5	17.0	17.0
4 磷 酸 三 石 灰	21.5	0	19.5	19.5
5 磷 酸 鐵	22.0	10.0	21.0	21.0
6 磷 酸 礬 土	22.0	0	20.5	20.5
7 磷 酸 礬	27.0	10.0	21.5	21.5

備考 窒素及加里ハ硫酸及硫酸加里ヲ以テ反當三貫目ノ割合ニ施用シ磷酸ハ各種磷酸鹽ヲ以テ反當三貫目ノ割合ニ施用セリ

成績概要、本年度ノ成績ニヨレバ磷鑛區最モ多收ナルガ如シ尙ホ繼續試驗ヲ要ス

第七 磷酸アルミナ精粗ニ關スル試驗 (新設)

本試験ハ磷酸アルミナノ精粗ニ關スル肥効ヲ查定セントスルモノニシテ其成績ハ次ノ如シ

試験區別	薬	批	穀	實
1 過 磷 酸	24.0	10.0	20.0	20.0
2 磷 酸 阿 爾 米 納 精 粉	25.0	0	22.0	22.0
3 磷 酸 阿 爾 米 納 粗 粉	20.0	0	20.0	20.0

備考 窒素及加里ハ硫酸及硫酸加里ヲ以テ施用セリ
成績概要、本成績ニヨレバ精粉ノモノ成績優良ナリ

施肥標準調査ノ部

第一 施肥標準調査

本年度ニ於テ施肥標準調査ノ實地踏査ヲ施行セル町村及其調査成績ヲ發表セル町村ハ次ノ如シ

施肥標準調査實地踏査町村		調査成績發表町村	
郡名	町村名	郡名	町村名
刈羽郡	刈羽村	南魚沼郡	石打村

刈羽郡	横 澤 村	南魚沼郡	中 之 島 村
南魚沼郡	石 打 村	全 郡	城 内 村
古志郡	上 組 村	全 郡	大 崎 村
		全 郡	東 村
		全 郡	浦 佐 村
		北魚沼郡	城 川 村
		刈羽郡	刈 羽 村
		中頸城郡	新 井 町
		古志郡	上 組 村
		佐波郡	新 穂 村
		全 郡	畑 野 村

第二 施肥標準量查定試験

本試験ハ施肥標準調査實地踏査ヲ施行セル町村ノ土壤ニ對シ施肥ノ標準ヲ查定セントスルモノニシテ其町村ハ次ノ如シ

郡名	町村名	郡名	町村名
岩船郡	岩 船 町	中頸城郡	黒 川 村
全 郡	西 神 納 村	西頸城郡	名 立 町
北蒲原郡	黒 川 村	中魚沼郡	中 條 村
全 郡	笹 岡 村	南魚沼郡	大 巻 村

依 賴 分 析 ノ 部

第一 分析件數及成分數

場用分析ハ土壤七十二件、肥料二十件、其他四十件、計二百〇四件、其成分千三百七十七成分ナリ、依賴分析ニ於テハ土壤二十二件、肥料七十二件、其他十三件、計百〇七件、其成分數二百三十四成分ナリ

所屬別	種類別	件數	成分數	窒素	磷 酸	加里	其 他	理 學 的 分 析
依 賴	土 壤	22	73	19	19	18	17	—
	肥 料	72	118	59	42	17	—	—
	其 他	13	43	—	—	—	43	—
	小 計	107	234	78	61	35	60	—

場用	土壤	肥料	72	720	72	72	72	504	-
		其他	72	504	-	-	-	-	504
		小計	204	1,377	107	125	117	524	504
		計	311	1,611	185	186	152	584	504
	肥料	20	48	15	18	15	-	-	

病 蟲 部

病 害 ノ 部

第 一 稻熱病ニ關スル試驗

其一 品種トノ關係 (續前三年)

本縣獎勵水稻品種ノ稻熱病ニ對スル抵抗力ノ差異ヲ知ラントスルモノニシテ一品種毎ニ六十株宛ヲ植エ品種間ニハ區劃ヲ設ケズ本場耕種梗概ニ依リ栽培ス試驗田ハ附近ニアル製鎔工場ノ下水流入シ排水極メテ惡シク稻熱病發生多キ所ナリ、供試品種ハ次ノ十六種ナリ、八月十六、七日兩日ニ亘リテ各品種區ニ於ケル發病葉數ヲ調査セシニ次ノ數ヲ得タリ、但シ病斑ノ多少ニ不拘一個ニテモ斑點ヲ有スルモノヲ一枚ト計算セリ

米 光	397	水ノ錦	215	新愛國	174	越中坊主	163
新石白	121	銀葉	81	石白	62	新大場	60
中生高宮	48	新二本	44	龜ノ尾	31	新一木	27
改良愛國	25	新高	13	越前	12	新岩	5

上表中銀葉、中生高宮ノ二區汚水流入他區ニ比シ多ク出來過ギノ程度又大ナリ

其二 肥料用量トノ關係 (續前二年)

三要素ノ多少及石灰ト發病トノ關係ヲ知ラントス、各區五坪供試品種ハ中生高宮ヲ使用シ施肥法以外ハ本場耕種梗概ニ依リ栽培ス、區別ハ標準(耕種梗概ニ依リ施肥ス)無肥料、無窒素(絶對的ニアラズ標準區ヨリ大豆粕ノ使用ヲ省クノミ以下之ニ準ズ)無磷酸、無加里、窒素二倍(絶對的ニアラズ標準區ノ大豆粕ヲ二倍量使用ス以下之ニ準ズ)磷酸二倍、加里二倍、石灰單用(肥料ヲ施サズ石灰ノミ反當三十貫用ユ)石灰加用(標準區ニ石灰反當三十貫ヲ加用ス)ノ十種ニ分チ行フ

八月十五、六日兩日ニ涉リテ調査セル各區ノ發病葉數次ノ如シ

窒素2倍	47	無加里	32	無磷酸	25	石灰單用	17
加里2倍	12	磷酸2倍	9	無肥料	6	無窒素	5
石灰加用	5	標準	5				

即チ窒素二倍最モ發病數多ク無加里、無磷酸之レニ次ギ、無肥料、無窒素ハ共ニ少ク石灰ノ使用ハ大ナル影響ヲ示サズ窒素ノ過用、磷酸加里ノ施

用不足ハ發病ヲ多カラシムル原因タルヲ知ルニ足ル

第二 大豆病害試験

其一 窒素質肥料種類トノ關係 (續前)

種類ノ異ル窒素質肥料ヲ施用シ發病程度トノ關係ヲ知ラントスルモノニシテ中魚沼郡芦ヶ崎村土壤ヲ「ワグネル」圓筒ニ盛り、生娘種ヲ各圓筒ニ五粒宛播種シ、發芽後二本ニ間引き、一、標準(本場耕種法ニ依リ施肥ス)、二、無肥料、三、堆肥(標準區ノ肥料ノ外ニ堆肥百貫使用)、四、人尿(六十貫ヲ使用シ磷酸加里ハ標準區ト等量トナル様其レ其レ過磷酸、硫酸加里ニテ補充ス)、五、石灰窒素(標準區ノ窒素分ヲ石灰窒素ニテ施用シ磷酸、加里ノ補充ハ前區ニ準ズ)、六、智利硝石(前區ニ準ズ)、七、硫酸「アンモニア」(前區ニ準ズ)八、硫酸「アンモニア」二倍(窒素ヲ硫酸ニテ二倍量使用シ磷酸加里ノ補充ハ前ノ如シ)、九、本場土壤無肥料、一〇、本場土壤標準肥料ニ分チ試験セシニ次ノ成績ヲ得タリ

區別	七月三日調査			七月廿七日調査		害虫ノ被害	根瘤ノ多少	收穫調査			
	高サ	葉ノ長徑	葉ノ短徑	高サ	開花程度			全重量	莢數	全上重量	豆ノ重量
1	37	18	12	70	始マル	ナシ	極少	0.5	3	0.4	0.1
2	35	17	11	100	始マル	少	多	4.1	25	3.1	2.2
3	27	13	8	50	始マラズ	ナシ	極少	0.4	2	0.2	0.1
4	40	20	17	100	始マラズ	少	少	3.4	22	2.2	1.5
5	45	20	14	110	多シ	中	多	4.2	24	2.8	1.8
6	40	21	12	100	始マラズ	少	中	3.2	21	2.1	1.4
7	37	18	12	90	始マラズ	少	中	5.4	34	4.3	3.4
8	37	20	11	100	始マラズ	稍多	中	5.7	38	4.2	3.1
9	50	22	18	欠	欠	欠	極多	7.0	22	1.4	1.2
10	50	21	14	120	多シ	稍多	極多	3.4	7	0.5	0.4

上ノ表ニ就キ葉ノ長徑及短徑ハ最大ナルモノニ付測定セルモノニシテ又收穫調査ノ各項ハ風乾セルモノニ付計測セルモノナリ

播種ハ六月八日、收穫ハ十月廿四日ニ施行セリ

前表ニ依リ推知シ得ル如ク1-8區ハ何レモ多少ノ月夜病ノ狀況ヲ呈シ發育惡シク開花期遅レ、開花ノ程度、根瘤共ニ少キガ此中ニテモ生育ニ於テハ石灰窒素區最上位ニアリ、人尿、智利硝石之レニ次グ、収量ニ於テハ

硫酸ハ二區共多ク、石灰窒素、無肥料之レニ次グ、又根瘤ノ多少ハ収量ト殆ンド一致ス

其二 土壤消毒トノ關係 (新設)

諸種ノ藥劑ニテ土壤ヲ消毒シ發病程度ニ及ボス影響ヲ知ラントシ「ワグネル」圓筒一個ニ中魚沼郡水澤村ノ土壤ヲ盛り本場耕種法ニ依リ栽培ス、供試品種ハ生娘トシ處理法ハ一、標準(無消毒)、二、燒土(供試土壤ヲ圓筒ニ盛レル儘三十分間燃火ス)、三、蒸汽消毒(供試土壤ヲ南京米ノ袋ニ入レ「コフホ」消毒釜ニテ三十分間宛二日間殺菌ス)、四、石灰硫黃合劑(一度液ヲ坪當リ二升ノ割ニ撒布ス)、五、全上(二度液ヲ使用ス)、六、「フオルマリン」(二十倍液ヲ坪當リ二升ノ割ニ撒布ス)、七、全上(十倍液ヲ使用ス)八、青酸加里(百匁ヲ一斗ノ水ニ溶解セルモノヲ坪當二升ノ割ニ撒布ス)、九、二硫化炭素(坪當〇、二封度ノ割ニ撒布ス)ニ分チ施行シ次ノ成績ヲ得タリ

區別	發芽數	六月二十九日調査		七月二十七日調査		根瘤ノ多少	害虫ノ被害	收穫調査				備考
		高サ	葉ノ大	高サ	開花程度			全重量	莢數	全重量	豆ノ重量	
1	6	2.5-3.0	0.7-0.9	3.0	ナシ	少	ナシ	2.7	22	1.4	1.2	葉ハ褐色トナリ卷轉萎縮ス 葉色常ナリ
2	6	2.0-3.0	1.2-1.5	9.0	ナシ	普通	少	4.2	30	3.1	2.2	葉色常ナリ
3	6	3.0-3.0	1.2-1.3	10.0	1個	少	少	2.9	25	1.9	1.1	全上
4	6	3.0-3.0	1.2-1.5	10.0	多シ	少	少	3.9	32	2.9	1.9	葉色淡ク褐色ノ斑點多シ
5	6	3.5-4.0	1.1-1.2	10.0	1個	少	少	5.0	36	3.7	2.6	全上
6	3	2.5-3.0	1.0-1.5	6.0	ナシ	ナシ	ナシ	3.8	23	2.8	1.9	一本ハ發育不真ナリ
7	1	1.0	0.4-0.5	10.0	2個	ナシ	稍多	1.0	9	0.8	0.6	矮小ニテ發育極メテ不真ナリ
8	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	發芽セズ
9	-	2.5-3.0	1.5-1.6	10.0	ナシ	多	稍多	5.0	37	2.9	2.1	葉色常ナリ

備考 上表ノ中六月二十九日調査ノ部ニ於ケル高サハ三本ニ就キ最長ナルモノト最短ナルモノトヲ測リタルモノニテ葉ノ大イサハ最大ナルモノニ付キ長徑ト短徑トヲ掲ゲシモノナリ又七月二十九日調査ニ於ケル高サハ平均高サヲ示シ、收穫調査ニアリテハ風乾セルモノニ付キ測レリ、播種、收穫日ハ其一試驗ニ同シ即チ生育ニ於テハ燒土、蒸汽消毒區ハ葉色濃ク、發育良好ナリシガ収量ニ於テハ二硫化炭素區最モ多ク、石灰硫黃合劑區之レニ次グ

害虫ノ部

第一 梨姬心喰虫驅除試験 (續前)

第二回袋掛ケヲ行フニ當リ其袋掛ヲ行フ時期ガ被害程度ニ及ボス影響ヲ知ラントセルモノニシテ袋紙ハ洋紙ニ荏油ヲ塗リタルモノヲ用ヒ、供試品種ハ長十郎トセリ、區別ハ次ノ如シ

1 區	標	準	袋掛ヲ行ハズ		
2 區	第1回袋掛時期	6月10日	第2回袋掛時期	7月10日	
3 區	全	上	6月25日	全	上
4 區	全	上	7月10日	全	上
5 區	全	上	7月20日	全	上

六月十六日果徑六、七分位ノ時、二區第一回袋掛ヲ百顆ニ就キ施行セシモ紙質甚ダ悪シク破レ易キ爲メ完全ニ袋掛ヲ行フ事能ハザリシ

六月二十九日果徑七、八分位ノ時、三區第一回袋掛ヲ百三十五顆ニ就キ施行セシモ前同様ニテ甚ダ不完全ナリ四、五區ハ供試果ナカリシ爲メ中止ス

七月十八日、七月二十九日夫レ夫レ二區及三區ノ第二回袋掛ヲ行ヒタリシモ収獲ニ就テハ前記事情ノ爲メ成績ヲ調査スル事能ハザリシ

第 二 蝮 蝸 喰 害 防 除 試 験 (續前十五年)

大麥播種ノ際「ナフタリン」及馬酔木ノ生葉ヲ撒布シ蝮蝸喰害防除上ノ効果及發芽生育トノ關係ヲ試驗セルモノニシテ一區一坪トシ甲、乙ニ分テニケ所相接シテ設ケタリ、生葉ハ二、三分角以内ニ細切シ花蕾ハ二、三分位ニ切り種子ヲ播下セル上ニ撒布シ、「ナフタリン」ハ播種前ニ撒布シ淺ク土ニテ覆ヒ其上ニ播下セリ、播種量ハ反當約五升ノ割ニテ一區當三匁ヲ秤量シテ播種セリ十月十二日播種シ發芽及ビ喰害ノ狀況左ノ如シ

區別	發 芽 數				蝮 蝸 喰 害 數				平 均	
	甲	乙	計	平均	甲	乙	計	平均	被害率	殘存數
1 標 準	49	94	143	71	13	20	33	16.5	23	54.5
2 馬酔木生葉反當15匁	50	94	144	72	5	2	7	3.5	4.8	68.5
3 全 反當7匁500匁	76	40	116	58	5	8	13	6.5	11.2	51.5
4 全反當花蕾7匁500匁	52	74	126	63	4	4	8	4.0	6.3	59.0
5 ナフタリン坪當 5匁	45	11	56	28	5	0	5	2.5	8.9	25.5
6 ナフタリン坪當10匁	14	13	27	13	0	3	3	1.5	11.1	11.5

發芽數ハ十月十九日地上ノ草丈ケ一吋乃至二吋位ノ時調査セルモノニテ馬酔木區ハ標準區ト大差ナク、「ナフタリン」區ハ甚ダ發芽惡シク、標準區ニ比シ二一四割ニ過ギズ

喰害調査ハ十月二十一日ヨリ十一月八日ニ至ル十九日間ニ蝮蝸喰害ニ依リテ倒レタル本數ヲ數ヘシモノニシテ標準區最モ多ク、次ハ馬酔木生葉反當七匁五百匁ヲ使用セル區ナリ、而シテ平均發芽數ヨリ平均喰害數ヲ差引タル成績ノ順位ハ馬酔木生葉反當十五匁、全花蕾反當七匁五百匁、標準馬酔木生葉反當七匁五百匁使用區ナリ

第 三 野 鼠 毒 劑 試 験 (新 設)

野鼠一頭宛ヲ飼育器ニ入レ、猫イラズヲ蕎麥團子ニ包ミ或ハ捏ネ混ゼテ添喰セシム、飼育器ハ徑約六寸高サ約一尺ノ亞鉛圓筒ニテ底部ハ金網ニテ張り、脚臺ヲ有シ蓋モ金網張リトス、供試食餌ハ小ナル重皿ニ入レ飼育器中ニ置キ他ノ食物ハ除キタリ飼育器ニハ綿、藁屑等ヲ入レタリ其ノ試驗ノ種類次ノ如シ

區 分	施行月日及供試頭數	備 考
無 毒 團 子	12月8日2頭、12月15日2頭 12月19日2頭	團子ノ大イサハ徑4-5分
團子ノ中ニ包ミタルモノ	8月16日3頭、8月18日3頭	耳搔キニ1杯位ヲ封包セルモノナリ
全 上	12月8日2頭、12月15日2頭 12月19日2頭、11年1月16日1頭	團子ノ大イサハ6-4分位ナリ大正11年1月16日ニ施行セルモノハ他ノ食物ト共ニ與ヘタリ
捏 ネ 混 ゼ	8月10日6頭	18匁ヲ粉1升ト捏ネ混ゼ團子ノ大イサハ2頭徑4.5.6分ノ三種ニ分ツ
全 上	12月8日2頭、12月15日2頭 12月19日2頭	團子ノ大イサ徑4-5分捏ネ混ズル割合ハ前ニ同シ
全 上	11年1月16日1頭	他ノ食物ト共ニ與フ
砒 酸 鉛	12月15日2頭、12月19日2頭	93匁ヲ粉一升ト捏ネ混ズ

以上ノ試驗別ニ依ル試驗回數及供試頭數ハ

區 別	無毒ノ團子	團子ノ中ニ包ミタルモノ	捏 ネ 混 ゼ	砒 酸 鉛
回數及供試頭數	3回 6頭	6回 13頭	5回 23頭	2回 4頭

成績次ノ如シ

無毒ノ團子ヲ與ヘタル場合

- 一、全部喰ス 四 頭
- 二、二、三回齧リトレルノミ 一 頭
- 三、踏ミ散シテ齧喰ノ模様ナシ 一 頭
- 團子ノ中ニ包ミタル場合
 - 一、團子ハ大部分喰セシモ毒劑ノ部分ハ喰セズ 一 頭
 - 一、團子ハ大部分喰シ毒劑ハ一部僅カニ喰セルノミ、
供試鼠ハ死ス 一 頭
 - 一、團子ハ大部分喰シ毒劑モ僅カニ一部ヲ殘スノミ、
供試鼠ハ死ス 三 頭
 - 一、全然齒ヲ附ケズ(内一頭ハ他ノ食物ト共ニ與ブ) 七 頭
 - 一、踏ミ散ラシテ齧喰ノ模様ナシ 一 頭
- 捏ネ混ゼタル場合
 - 一、團子ハ全形ヲ維持シ、二三回齧リ取りタルノミ、
供試鼠二頭死ス 九 頭
 - 一、團子ハ全形ヲ維持シ二、三回齧リ取り小片ハ重皿
中ニ散亂シテ齧喰ノ模様ナシ 二 頭
 - 一、團子ハ踏ミ散ラシ切齧食ノ模様ナシ 二 頭
- 硫酸鉛ヲ捏ネ混ゼタル場合
 - 一、團子ハ踏ミ散ラシ齧食ノ模様ナシ 三 頭
 - 一、全然齒ヲ附ケズ

以上ノ成績ニ依リ次ノ事項ヲ判斷シ得

- 一、蕎麥粉團子ハ普通ノ食物ヨリ嗜好サレズ
- 一、猫イラズヲ使用セル團子ハ無毒ノ團子ヨリ嫌忌サル
- 一、猫イラズヲ中ニ包ミタルモノハ周圍ノミ齧喰サレテ毒劑ノ部分ヲ
殘ス傾向アリ
- 一、猫イラズ及硫酸鉛ヲ捏ネ混ゼテ團子トセルモノハ全然齧喰サレズ

薬 劑 ノ 部

第 一 銅石鹼液撒布試驗 (新 設)

胡瓜ニ撒布シテ本劑ノ露菌病豫防上ノ効果ヲ石灰「ホルドウ」液ト比較セ

ントスルモノニシテ藥劑ハ八匁式銅石鹼液普通石灰「ホルドウ」液、半量式石灰「ホルドウ」液ノ三種ニ分チ各區四坪、品種ハ節成ヲ使用セリ

藥劑撒布ハ各區共第一回ハ五月三十日、第二回ハ六月十九日、第三回ハ七月八日ニ行ヒタリ各區ヨリ生育ノ旺盛ナル四一七株ヲトリ七月十六日及全二十日ノ二回ニ調査セル發病程度次ノ如シ

區 別	調 査	月 日	第一株	第二株	第三株	第四株	第五株	第六株	第七株	計	株數	被害率歩合
銅 石 鹼	調査葉數	7.16	17	19	14	50	11	21	—	132	6	—
		7.20	20	30	20	33	—	—	—	105	4	—
	被害葉數	7.16	9	9	7	11	5	15	—	56	—	42.4
		7.20	3	10	8	16	—	—	—	37	—	35.2
等量式ホルドウ	調査葉數	7.16	18	16	15	17	16	24	25	136	7	—
		7.20	59	48	27	—	—	—	—	134	3	—
	被害葉數	7.16	11	9	8	7	9	8	12	64	—	47.0
		7.20	38	27	10	—	—	—	—	75	—	53.9
半量式ホルドウ	調査葉數	7.16	33	33	19	15	21	—	—	121	5	—
		7.20	21	22	28	37	16	—	—	124	5	—
	被害葉數	7.16	18	14	11	7	15	—	—	65	—	53.7
		7.20	12	12	23	14	4	—	—	65	—	52.4
標 準 區	調査葉數	7.16	56	14	28	47	—	—	—	145	4	—
		7.20	70	32	58	—	—	—	—	160	3	—
	被害葉數	7.16	21	5	19	20	—	—	—	65	—	44.8
		7.20	40	20	24	—	—	—	—	84	—	52.5

即チ發病程度ニ於テハ何レモ大差ハナケレモ石灰「ホルドウ」液ハ最モ發病多ク銅石鹼液區最モ少シ

収穫ハ六月十七日ニ始メ八月五日ニ終ル各區ノ収量ハ銅石鹼液一六九個八貫〇八二、等量式「ホルドウ」液一五二個、七貫五七六、半量式「ホルドウ」液一六六個七貫八九九、標準二四八個一四貫一四四ニテ標準區最モ多ク他ハ大差ナシ

委 托 試 験 ノ 部

第 一 大豆月夜病試驗 (繼續第七年)

中魚沼郡農會ニ委托シ水澤村ト芦ヶ崎村トニテ施行セリ、水澤村ニ於ケ

ルモノハ土壤消毒試験ニテ石灰硫黄合劑「ボーマ」二度液及四度液ヲ播種前
 三日前ニ坪當リ二升ノ割ニ撒布セルモノ、「ナフタリン」坪當リ十五匁、硫
 黄華ヲ坪當リ十匁ヲ元肥ニ混用セルモノニ付キ試験セルニ各區共ニ豆ノ収
 量ハ極メテ僅少ナリシガ標準區ノ反當大豆(良質ノモノ)ノ収量六升ニ比シ
 石灰硫黄合劑二度液區ハ七升五合ニテ成績最上位ニアリ、次ハ硫黄華區ニ
 テ標準區ト収量等シク「ナフタリン」區最モ劣レリ

芦ヶ崎ニ於ケルモノハ肥料ノ種類ト發病トノ關係ヲ試験セルモノニテ本
 場標準肥料(人尿三十貫、藁灰二十四貫、過磷酸石灰三貫)ニ堆肥百貫、人
 尿三十貫、硫安五貫、過磷酸五貫、藁灰三十貫ヲ加用セルモノ、堆肥單用
 (百貫及二百貫)、硫安單用(十貫)過磷酸單用(十貫)、藁灰單用(五十貫)、
 人尿單用(百貫)、芦ヶ崎附近ニ普通ニ使用セラル、肥料(堆肥五十貫、人
 尿二十貫、過磷酸六貫)ニ分チテ試験ヲセルニ大豆ノ収量ニ於テハ第一位
 ハ堆肥單用二百貫區ニテ反當五斗五升アリ、同シク百貫使用區、過磷酸加
 用區ハ等量ニテ第二位ニアリ、芦ヶ崎普通肥料ハ第三位ニテ五斗一升アリ
 次ハ藁灰單用、全加用、硫安加用、堆肥加用ノ順位ニテ硫安單用ハ反當一
 斗ニテ最モ劣レリ

第二 馬鈴薯青枯病試験 (繼續第五年)

中頸城郡中郷村ニ於テ石灰硫黄合劑ノ土壤消毒ノ効果ヲ試験セシモノナ
 レ共各區共一本ノ發病株ナカリシタメ成績ヲ見ル事能ハザリキ

第三 梨姫心喰虫防除試験 (繼續第五年)

中蒲原郡早通村ト北蒲原郡木崎村トニ施行ス

早通村ニ於ケルモノハ袋掛ノ回数ト被害程度トノ關係ヲ試験セルモノニ
 シテ二回、三回、四回ノ袋掛ニ付大差ハナカリシモ三回區最モ少ク、被害
 果、個數ノ八%アリ四回區最モ多ク一%ナリ、品種ハ早生赤ニテ供試果
 數ハ各區三百乃至四百ナリ

木崎村ニ於ケルモノハ二回袋掛ト無袋ニテ除虫菊加用石油乳劑(石油乳
 劑素八十倍液ニ除虫菊二十匁加用)、硫酸鉛百匁及亞硫酸曹達液一合加用、
 四斗式石灰「ボルドウ」液ヲ撒布セルモノトノ被害程度ヲ比較セルモノニテ
 最モ被害多カリシハ無袋、無撒布ニテ被害率ハ個數ニ付キ三三%アリ、但
 シ此區ハ一部盜難ニ罹リシ爲メ被害率他區ニ比シ高マレリ、他ノ區ハ何レ

モ大差ナク、硫酸鉛加用「ボルドウ」液六、七%、二回袋掛六、一、除虫菊
 加用石油乳劑五、五%、亞硫酸曹達液加用「ボルドウ」液四、二%ナリ、但
 シ供試果數ハ各區二百乃至三百顆ニテ袋掛ハ一番六月二十六日、二番八月
 二日ニ施行シ、第一回藥劑撒布ハ七月二十七日、第二回ハ八月十一日ニ行
 ヒリ、而シテ毒劑加用「ボルドウ」液ハ何レモ果面ニ汚染ヲ生ジ葉又傷ミタ
 リ(主トシテ第二回ノ爲メ)

野鼠窒扶斯菌配布之部

郡市名	春 季 (單位町)			秋 季 (單位町)		
	恙 虫 有 毒 地	農 耕 地	計	恙 虫 有 毒 地	農 耕 地	計
岩 船 郡	—	235	235	—	—	—
北 蒲 原 郡	230	622	852	113	50	163
東 蒲 原 郡	—	—	—	—	—	—
西 蒲 原 郡	—	14	14	—	31	31
中 蒲 原 郡	40	692	732	—	423	423
南 蒲 原 郡	35	326	361	—	960	960
三 島 郡	—	117	117	—	397	397
古 志 郡	—	55	55	—	108	108
北 魚 沼 郡	—	210	210	—	30	30
中 魚 沼 郡	—	1,027	1,027	—	50	50
南 魚 沼 郡	—	265	265	—	82	82
刈 羽 郡	—	52	52	—	141	141
中 頸 城 郡	—	241	241	—	22	22
西 頸 城 郡	—	180	180	—	89	89
佐 渡 郡	—	50	50	—	88	88
高 田 市	—	200	200	—	—	—
長 岡 市	—	165	165	43	122	165
其 他	—	—	—	—	26	26
合 計	305	4,451	4,756	156	2,619	2,775

農業技術員及補習學校教員養成

農業技術員養成事業ハ大正八年度ノ創設ニ係リ爾來引續キ町村農業技術員ヲ養成シツ、アリ、大正九年度ニ於テ講堂及寄宿舍ヲ新設シ主事トシテ專任技師一名ヲ置キ事業ノ整備ヲ計リ、更ニ本年度ニ於テハ規定ヲ改正シ給費制度ヲ設ケ養成定員ヲ増加シテ從來ノ二十名ヲ、給費生二十名、自費生十四名トナシ一方技術員ノ充實ヲ計ルトトモニ地方農事研究特志者ノ爲メニ門戸ヲ開放セリ

更ニ本年度ニ於テハ本縣ヨリ農業補習教員養成講習生十一名ヲ受託シ、技術員ト同時ニ之レガ養成ヲ行ヒタリ、本講習生ハ修業後小學校專科正教員ノ免狀ヲ下附セラル、モノニツキ、技術員養成部生徒ニ對シテモ教員希望者ニ便宜試験ヲ施行シ該免狀下附ノ申請ヲナシ合格者九名ヲ出セリ

本年度入場志願者ハ技術員ニ於テ五十三名、教員ニ於テ二十五名、其中ヨリ夫々三十四名及十一名ヲ撰拔シ、大正十年四月一日ヨリ大正十一年三月三十一日ニ至ル滿一ケ年間養成セリ

修得者氏名次ノ如シ(大正十一年五月調)

一、技術員ノ部

氏名	自費給費	學歷	原籍	修得後ノ況狀	備考
遠藤幸英	給費	甲種農卒	北魚沼郡廣瀬村	北魚沼郡上條村技術員	專科正教員
日馬治	全上	全上	西頸城郡能生谷村	東京農科大學實科	全上
田邊義博	全上	全上	刈羽郡野田村	新潟縣農事試驗場補助種藝部	全上
中島基	全上	全上	三島郡桐島村	古志郡北谷村農業補習學校教員	全上
水澤孝市	全上	乙種農卒	中頸城郡明治村	三島郡寺泊町農會技師	
大塚長四郎	全上	全上	刈羽郡中通村	自營	
足利千代治	全上	甲種農卒	西頸城郡名立村	西頸城郡今井村員	專科正教員免狀下附
高木義一郎	全上	乙種農卒	三島郡宮本村	新潟縣農業補習學校教員養成部	
庭山民治	全上	全上	刈羽郡二田村	自營	
四嶋正雄	全上	全上	東頸城郡奴奈川村	刈羽郡二田村技術員	
水澤郡治	全上	相當認定	中頸城郡明治村	中頸城郡菅原村技術員	
小林六郎	全上	乙種農卒	刈羽郡枇杷島村	東蒲原郡三川村技術員	

利根川一男	給費	乙種農卒	四頸城郡能生谷村	中魚沼郡千手町村技師	村員	
五十嵐富一	全上	全上	刈羽郡北條村	古志郡上川四村技術員	技師	
森山寛三	全上	相當認定	北魚沼郡田川入村	北魚沼郡田川入村技師	技師	
小館仁一郎	全上	縣農事講習所卒	古志郡東谷村	南蒲原郡長澤村技術員	技術員	
霜田憲太郎	全上	乙種農卒	刈羽郡上條村	四頸城郡名立村技術員	技術員	
井澤民治	全上	全上	刈羽郡鯨波村	刈羽郡農會見習生	見習生	
木村忠悟	全上	甲種農卒	三島郡日越村	自營	營	專科正教員免狀下附
吉田富虎	自費	乙種農卒	北蒲原郡聖籠村	新潟縣農業補習教員養成	教員	
鹽田信吾	全上	全上	北蒲原郡京ヶ瀬村	全上	上	
白井四郎	全上	全上	北蒲原郡中浦村	新潟縣農事試驗場園藝部業手	業手	
富岡正俊	全上	全上	東頸城郡沖見村	長岡女子師範學校助手	助手	
布施有一	全上	全上	東頸城郡旭村	自營	營	
會田甚作	全上	全上	刈羽郡上條村	刈羽郡農會見習生	見習生	
伊部義弘	全上	全上	刈羽郡中通村	自營	營	專科正教員免狀下附
小幡廣作	全上	甲種農卒	古志郡太田村	自營	營	
渡邊仁炳	全上	中學四年修業	南蒲原郡大崎村	自營	營	
鹽谷信雄	全上	相當認定	南蒲原郡中之島村	自營	營	
川井彌一郎	全上	全上	中魚沼郡岩澤村	自營	營	
村川保三	全上	中學校卒	中蒲原郡十全村	自營	營	專科正教員免狀下附
宮村嘉久男	全上	全上	北蒲原郡川東村	自營	營	全上
高浪芳郎	全上	乙種農卒	東頸城郡安塚村	自營	營	
諸橋正俊	給費					病氣退場

二、教員ノ部

氏名	自費給費	學歷	原籍	修得後ノ狀況	備考
大塚邦平	給費	甲種農卒	南魚沼郡六日町	中蒲原郡石山村農校助教	專科正教員免狀下附
吉村顯正	全上	全上	中頸城郡明治村	縣立高田農業補習學校助教	全上
小林久一	全上	全上	中頸城郡水上村	北蒲原郡葛城町農商補習學校助教	全上
室岡兼八	全上	乙種農卒	東頸城郡山平村	長岡市川崎農業補習學校助教	全上
小松健次郎	全上	中學校卒	佐渡郡金澤村	岩船郡中俣村小俣農業補習學校助教	全上
三宮正勝	全上	甲種農卒	刈羽郡刈羽村	刈羽郡上小國村結城野農業補習學校助教	全上

佐伯男	給費	甲種農卒	中頸城郡諏訪村	四頸城郡糸魚川農業補習學校助教	補給	專科正教員免狀下附
加納實	全上	乙種農卒	刈羽郡刈羽村	古志郡東谷村前東谷農業補習學校助教	補給	全上
相澤首治	全上	縣農事講習所卒業	東頸城郡松之山村	中蒲原郡横越村農業補習學校助教	補給	全上
玉本源平	全上	中學校卒業	四蒲原郡國上村	岩船郡神納村農業補習學校助教	補給	全上
熊倉忠二	全上	甲種農卒	北蒲原郡中條村	南蒲原郡大崎村農業補習學校助教	補給	全上

Table with multiple columns and rows of text, likely a ledger or record book.

Table with multiple columns and rows of text, likely a ledger or record book.

Table with multiple columns and rows of text, likely a ledger or record book.

庶務部

Table with multiple columns and rows of text, likely a ledger or record book.

Table with multiple columns and rows of text, likely a ledger or record book.

Table with multiple columns and rows of text, likely a ledger or record book.

第一 出張ニ關スル事項

用 務	回 數	日 數
農 事 視 察	42	100
種 苗 採 取	17	22
土 性 調 査 其 他 指 導	22	123
團 地 競 作 會 其 他 審 査	33	139
事 務 打 合	100	267
農 事 講 話 及 講 習	58	172
農 事 調 査 其 他 監 督	202	429
實 地 指 導	14	44
擔 當 人 協 議 會 其 他	21	39
栽 培 調 査	17	34
病 虫 害 豫 防 驅 除 督 勵	18	36
計	544	1405

第二 印刷物發刊ニ關スル事項

種 別	部 數	種 別	部 數
大正九年度事業報告	300	採種圃一覽	200
特別報告第十四號	200	水稻獎勵原種特性表	700
特別報告第十五號	200		

第三 文書取扱件數

本年度ニ於テ取扱セシ文書五千六百二十九件ニシテ内譯下ノ如シ

收 受	件 數	發 送	件 數
	3,272		2,357

第四 參觀人員

本年度ニ於ケル參觀人員下ノ如シ

參 觀 人 員	人 數
	6,592

第五本場職員氏名 (大正十一年十月一日現在)

分 擔 事 務	職 名	氏 名
場 長	技 師	前 田 源 吉
農 藝 化 學 部 主 任	技 師	林 忠 昭
種 藝 部 主 任 原 種 係	技 師	川 上 桂 作
園 藝 部 主 任	技 師	安 藤 安 孝
種 藝 部 育 種 係 主 任	技 師	和 田 滋 種
技 術 員 養 成 部 主 任	技 師	欠 田 員 治
病 虫 部 主 任	技 手	高 橋 信 治
園 藝 部 係	技 手	松 本 綠 治
種 藝 部 採 種 係	技 手	西 山 茂 平 治
農 藝 化 學 部 係	技 手	金 子 敬 三 純
種 藝 部 種 藝 係	技 手	上 野 輝 正 平
種 藝 部 採 種 係	技 手	生 越 正 平 郎
農 藝 化 學 部 係	技 手	松 岡 誠 一 員
種 藝 部 原 種 係	技 手	欠 本 坊 大 吉
種 藝 部 育 種 係	技 手	山 崎 元 介
園 藝 部 係	技 手	山 本 亥 三 郎
庶 務 會 計	主 事 補	山 三 條 芳 太 郎
農 藝 化 學 部 係	助 手	工 藤 常 太 郎
園 藝 部 係	助 手	長 谷 川 常 一 藏
種 藝 部 係	助 手	井 上 恂 德 一 藏
病 虫 部 係	助 手	寺 澤 邊 義 博 作
種 藝 部 係	助 手	田 邊 梶 傳 治
種 藝 部 係	助 手	小 村 梅 子 一
種 藝 部 係	助 手	田 村 梅 子 一
庶 務 係	雇 員	片 桐 子 一

大正十一年十月廿五日印刷

大正十一年十月三十日發行

新潟縣農事試驗場

長岡市愛宕町

印刷人 茨木三次郎

長岡市坂之上町二丁目

印刷所 株式會社 北越新報社

142A
28/1

終